現代スポーツ百科事典

責任監修 日本体育協会

●予約受付中！（受付期間45年8月末日まで） 予約特価7,500円（定価8,000円） ●配本＝45年9月

日本体育協会の全面的協力を得た日本初の本格的スポーツ百科事典！

五大特色

1. 堂々4000項目におよぶ日本初の本格的スポーツ百科事典！
2. カラー写真、各種図版を満載！
3. 日本体育協会のもとに一流執筆陣！
4. 事典編集の〝壁〟を破る革命的編集！
5. 豪華な装幀、堅牢な造本！

●推せん者……………………
松田恒次氏・美濃部亮吉氏・栗本義彦氏・西村三郎氏・石原慎太郎氏・ブランデージ氏・石井光次郎氏・赤石清悦氏・河野義克氏・古橋広之進氏



本事典の体裁 判型＝B5判／内容＝本文九六〇頁、写真・図版計約一、五〇〇頁、口絵六四頁／装幀・造本＝表紙・布クロス、2色箔押し、函入り（3色オフセット印刷）ビニールカバー付

最寄りの書店にご注文下さい

写真と図解による ハンドボール

荒川清美・石井喜八共著 ¥400

ハンドボール界の鬼才とうたわれる著者が長い間の研究成果を自らの写真と図で描いた斯界待望の技術書。

〈主要目次〉 Ⅰ競技の概説と歴史 1.ハンドボール競技の概説 2.ハンドボールの歴史 Ⅱ個人技術 3.ボールを扱う 4.ボールを扱う練習法 5.身体を扱う（ボディコントロール） 6.シュートとその練習 7.ゴールキーパー Ⅲ集団技術 8.コンビネーションプレーによる攻撃 9.コンビネーションプレーによる防御 10.攻防への移動練習 11.デッドタイムからインプレーへ Ⅳハンドボールの科学的基礎

大修館書店 東京・神田錦町3－24 振替／東京40504

株式会社 **三景**



1970・fashion

洋装服飾専門商社㈱三景・東京都千代田区岩本町3－2－10 〒101

ミュンヘンへの道

西ドイツ11人制ブンデスリーガ中止の報が入った。オリンピックのためとは云え、西ドイツにあれだけ定着している11人制のブンデスリーガが中止されるということは、大げさに云うなら日本でプロ野球を全くやらないでやめてしまうのと同じことになろう。このことを考えてもらえば、いかにこれが大きなことかは判っていただけよう。

昨年あたりから、西ドイツの11人制と7人制のシーズンはおかしくなってきている。昨夏、全日本の訪独に際しても、7人制のナショナルを組み対戦してくれているし、今年も四つの国際試合を行なっている。

オーストリーでも、11人制の国際試合をやめるという。11人制の衰えは明らかであるとともに、これらの11人制をあくまでもやりぬこうという国にとっても、オリンピックというのがいかに大きな意味をもっているのかを理解していただけよう。

予選までは僅か一年である。解決しなければならない問題は山積している。予選の財政上の問題、運営上の問題、これらが大きく日本の前にミュンヘンへの道を妨げている。ミュンヘンへ行くためにはこれを一つ一つ解決していかなければならない。

予選の相手となる韓国、イスラエルともにあるどりがたい相手である。それと対戦する前に解決しておかねばならない技術、戦術以外の問題、これは日本のハンドボール界あげて解決せねばならない問題なのだ。

技術・戦術に関してはある程度メドがついている。そのほかの問題は難問が多い。選手団の根性にはじまって、自信の問題もあろう。オリンピックというチャンスをつかむために、各国とも眼の色が変っている。これに勝ちぬくためには、強い自信が何よりも大切だろう。練習につちかわれ日本ハンドボール界の声援を脊に斗っているのだという強い自信を選手団がもてるようにするのが、我々日本のハンドボール界の責務である。すべての面に山積している難問を一つ一つハンドボール界全員の手で片づけていかなければならない。ナショナルチームにこの〃大事業〃をまかせ切りというのではなく全員で努力していかなければこの三十六年ぶりのチャンスを生かすことができない。このさき、日本協会、日本ハンドボール界に〃ムダな日〃は一日たりともないことを自覚したい。（藤本）

時評

日本協会の周辺はこのところ実にあわただしい動きも活気がある。すべてはミュンヘン・オリンピックアジア予選実施が原因だ。ついに来るべき時が来たといった感じである。

そのうえに世界女子への参加スウェーデン男子ナショナルの招待といったビッグエベントがあり、国内行事に目を移しても来年度は全日本総合を初めて12月（屋内）へ移行する最初の年ということになっている。

これらの重要事項をすべて〃成功〃で乗り切らねばならないわけだが、それには相当の覚悟が必要だと思う。

執行部も脊水の陣を布く構えだが、すべて早目々々に手を打たなければならぬ問題ばかり、一日も早く各責任体制を明らかにすべきではなかろうか。

あらゆるパートに同一人物が顔を出すようでは斯界の人材層のうすさを暴露するようなものだ。

「いや、実際に人がいないよ」という蔭の声も耳にしないではないが、それは有能の士を発掘育成する態度がまったくなかったからである。今さらこんなグチをこぼしてもはじまるまいがハンドボールへの情熱にあふれた人は豊富なのだ。目白押しの事業を円滑にすすめる労苦はなみたいていのことではなかろうが、成否のカギの一つは人材豊かなスタッフを揃えることにかかる。この努力を怠るようなら、極言すれば斯界は一生陽の目を見ない存在になりかねない。飛躍の絶好のチャンスは、ひとつまちがえば重大なピンチに裏返されることを、もういちど認識して欲しい。

好材料ももちろんある。田村会長の陣頭指揮、荒川理事長の堅実な組織固めへの情熱がようやく実って、日本協会の運営もひところに比べればスマートになった。さ細なできごとを突っつきあって、なに一つ大きな仕事がまとまらないといった印象を抱かせた時代もあるが、もはやそのカゲはない。嬉しいことだ。

過去いくどとなく〃挙国一致〃が念仏のようにくり返されて来たが、今ほどこの言葉と行動が重要な時期はあるまい。幸にもそのムードはある。しかも高い……。

そして、協会創始期の先輩たちの苦心を思いだせば、目前にした大事業も「さしたる難事ではない」といったら軽々しい発言に聞こえるだろうか。（X）

「ハンドボール」11月号（第81号）目次

ミュンヘンへの道……(1)
時評……(1)
全国評議員会・理事会……(2)
IHF総会報告…渡辺和美…(4)
日韓社会人交流……(6)
日本協会、アジア連盟に慎重……(7)
44年度決算報告……(9)
第25回国体……(10)
技術指導部総会……(21)
全国中学校指導者講習会報告①……(18)
海外トピックス……(23)
IHFコーチシンポジウム報告②……竹野奉昭…(24)
ハンドボールの歩み㉓……(28)
各地の記録……(31)
編集後記……(32)

【表紙写真】第25回国体一般男子2回戦・ダークホース同士全愛知対住化菊本戦。全愛知藤中の攻撃（10月12日・盛岡市）

撮影・山田真市

オリンピック・アジア予選
日本への誘致を検討
全国評議員会・理事会

全国評議員会（臨時）

10月11日午後5時5分から盛岡市・教育会館第3会議室で開催。
◇議長　田村会長
◇出席者　北海道（岡田）、秋田（由利）、岩手（中川）、宮城（福島）、富山（角）、新潟（渡辺）、福井（関）、石川（油谷）、東京（佐野）、茨城（増田）、静岡（片瀬）愛知（中浜）、岐阜（高井）、京都（田中）、和歌山（中村）、岡山（村山）、広島（上田）、山口（柳井）福岡（中西）、沖縄（宮城）、全日本学連（西）、全国高体連（岡前）全日本実連（西村）以上23名。有効委任状12通、計35名（定数51）で会議成立。
◇日本協会・執行部側　田村議長渡辺、保坂両副会長　荒川理事長村田オリンピック対策部長、安藤審判部長、佐藤理事ら15名。
◇オブザーバー　富永全自衛隊連盟理事長、山田和歌山協会副理事長、太田岩手協会副理事長。

会はかってない出席者を得て極めてスピーディに進行された。

荒川理事長からの昭和45年度上半期事業報告、第13回IHF総会報告（本誌4頁参照）、昭和44年度決算報告を異議なく承認、協議事項へ進んだ。

今回の最大懸案であるミュンヘンオリンピックアジア予選については、田村会長、荒川理事長の経過報告のあと、杉山総務企画部長村田オリンピック対策部長から財政面、技術（競技）面で、いずれも「日本に韓国、イスラエルを招いて3ケ国集結とし、全日程（総当り2回戦・計6試合）を行うのがもっとも望ましい」旨の説明があり、村田部長は『開催地はともかく、どのようなことがあってもこの予選を勝ち抜き36年ぶりに迎えたオリンピック参加を是が非でも果したい』と決意をつけ加えた

由利評議員（秋田・代理出席）から「日本誘致の可能性」について質問があった以外は特に意見の交かんはなく、全会一致で執行部が積極的に〝日本誘致〟を検討するよう承認した。

この決議をうけて田村会長、荒川理事長は『国際ハンドボール連盟（IHF）の意向を確認したうえ、日本における3ケ国集結による予選会実施を韓国、イスラエル側とただちに折しようする』と述べた。

各国際交流も承認

つづいて来年9月のスウェーデン男子ナショナルチーム来日、第5回世界女子選手権（46年12月・オランダ）への参加を確認　スウェーデン男子ナショナルチームの招待は、オリンピック強化対策の重要ポイントでもあり全組織をあげて協力体制を打ち出すことが申し合わされ、総経費を開催地協会の均等割りにして負担、収支を賄う執行部案が全会一致で承認された。

このほか、11月の日韓社会人交流に日本代表として愛媛クを派遣することも決定、来年度事業については、各大会の日程案は問題なかったが（いずれも別掲）、各専門部から提出された事業予算は、収入予定額をはるかに上廻るため、今後の修正、再検討が執行部から約束された。

また、一般男女チーム、特に社会人クラブの登録数減少について説明が行われ、このままでは協会財政に及ぼす影響も大きく、各都道府県協会の理解と協力を田村会長は強く要望し午後6時10分閉会となった。

世界女子へ候補選手を選こう
中学・クラブの地域大会を促進

全国理事会（臨時）

10月10日午後5時から盛岡市・菊屋ホテルで田村会長、渡辺副会長、荒川理事長らが出席し開催。
▽議長　田村会長
▽出席者　荒川理事長ら15名、有効委任状8通　計23名（定数32）で会議成立。
◇オブザーバー、加藤岩手協会副会長ら3名。

報告事項では第13回IHF総会に出席した渡辺副会長の報告が焦点となり「オリンピックアジア予選の実施、第5回世界女子選手権の来年開催、第8回世界男子選手権の一九七四年東ドイツ開催」などをいずれも確認した。

引きつづき最重要案件であるミュンヘン・オリンピックアジア予選についての協議がおよそ1時間にわたって行われ、各理事から活発な意見が述べられたが、常務理事会の提出した「同予選会を日本で開催する」案にはほとんど異論なく、韓国、イスラエルへの折しようをいかにして進めるかが話題となった。両国がホームアンドアウエイを望んだ場合の対策（特に財政面の工面）もたてておくべきだという発言もあり、年内に3国代表者会議を開くなどして同予選会の誘致には慎重に臨むことを田村会長、荒川理事長が約した。因みにホームアンドアウエイの場合総経費は約千三百万円、日本開催の場合は約九百万円と推算されている。

同予選会の会期については来年11月から12月初旬にかけて行うべきだという結論にまとまり、この点も韓国、イスラエルへ働きかけることになった。

審判員については渡辺副会長から、IHF技術委によって4名（2組）が派遣される予定との報告があり日本協会としては受け入れることを確認した。この問題に関連して日本人審判員の国際舞台への登用（6審判員が資格申請中）をIHFに要望することを申し合わせた。

来年12月10日からオランダで開催の決まった第4回世界女子7人制選手権については、参加を再確認したものの、技術指導部によって示された「代表選手15名、監督コーチ各1名を同部が推せんした

9委員によって今年内に選こうする」という提案に対しては、日本体協の予算補助対象が14名の予定でしかもなお減員の危惧もあるなどの理由から、代表選手を年内に発表するのは早計との意見が支配的となった。結局、技術指導部の推せんする9委員が、12月の第17回全日本選抜終了後、「女子ナショナルチーム候補選手」を選こうし明春1月に強化合宿を行い、予算措置の見とおしがつくと予想される来春の全国理事会で代表選手を承認することに落ち着いた。

候補選手の人数と指導、強化はいっさい技術指導部に一任されたが代表選手の選こうは改めて「選こう委員会」を編成、同委によって行われる。

なお、女子ナショナルチーム候補選手の選こう委員は次の9氏である。

勝繁夫（技術指導部長）、宇津野年一、井薫、鈴木義男、池田鉄哉、近藤金博、福本弘（以上技術指導部委員）、中出盛雄（大阪協会理事）、藤原侑（日体大女子監督）

来年度事業ほぼまとまる

スウェーデン男子ナショナルチームの招待については、スウェーデン側の希望する選手団24名（役員7、審判員1、選手16）、46年9月1日来日を承認、9月3日に第1戦、9月16日または19日までの間に全国各地で7試合を行うことに正式決定した。7試合のうち最低3試合、全日本ナショナルチームとの対戦を組みこみ、その他の4試合もオリンピック強化を主眼とすることに決めた。経費については、総務企画部の示した総額三百五十万円を7試合会場で均等割りするという案を認め、この結果、日本協会への納入金は1試合50万円になった。開催申しこみの〆切は11月25日。

このほかの昭和46年度国内事業（各大会）は次のように内定した。

一、第3回全自衛隊大会　6月5～7日　東京。

一、昭和46年度全日本実業団トーナメント　6月6日～9日又は6月13日～16日　開催地未定。

一、第18回全日本選抜（NHK杯大会に改称交渉中）、6月18日～20日又は6月25日～27日　開催地未定。

一、第12回全日本実業団リーグ（全日本実業団選手権）7月中旬開催地未定。

一、第22回全日本高校選手権　8月2日～7日、松山市。

一、第14回全日本教職員選手権　8月19日～22日　鹿児島県隼人町

一、第26回国体　10月24日～29日　和歌山県打田町

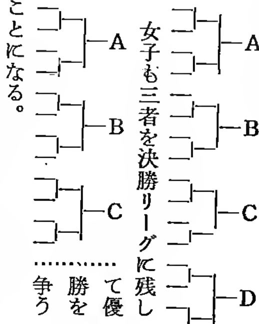
一、第23回全日本総合選手権　12月8日～12日又は12月15日～19日　東京（＝予定）

（注）このほかの大会は未定

決勝リーグ採用　全日本総合

注目されるのは全日本選抜の6月移行と、全日本総合の12月開催だ。特に全日本総合は男子16、女子12（将来は16）チームをすべて日本協会あるいは各加盟団体の推せんによる出場とし、その競技方法も宿願の「予選トーナメント、決勝リーグ」とすることに決まった

男子は予選トーナメントを左図のように行い、第三日以後ABCDが決勝リーグ。



女子も三者を決勝リーグに残して優勝を争うことになる。

また、今年の第17回全日本選抜（12月18日～20日・東京体育館）は、本誌既報のとおり、男女とも国内4強のリーグ戦で行われるが出場チームの選こう委員11名が次のように発表された。出場チーム名は11月上旬に決定。

荒川理事長、安藤、村田、若崎勝、杉山各常務理事、田中全日本学連理事長、田中全日本実連理事長、山田全日本教職連理事長、徳永全国高体連部長、佐野東京協会理事長。

ブロック（中学・クラブ）へ助成金

斯界懸案の中学校対策、クラブ対策については、「基本的には来年度も全国大会を行う構想はない」（荒川理事長）との発言に反論はなく、近い将来両者とも全国大会を実施するよう研究をすすめることを申しあわせた。来年度は、今年度同よう、ブロック単位の中学大会、クラブ大会の実施に努力しインターブロックといった新しい試みを積極的に行うよう田村会長、荒川理事長から要望がつけ加えられた。

また、日本協会ではブロック協会が中学大会を実施する際、一大会円につき3万円～4万円（うち1万は日本協会杯作成費）の助成金を交付する案があることを明らかにした。クラブのブロック大会には日本協会杯を贈ることになり東海協会の「東海クラブ選手権」（11月1日・名古屋）がその第1号となる。午後8時10分閉会。

（注）日本協会規約では理事会への委任状出席を許可していないが44年9月26日の全国理事会で田村会長から「オリンピック（47年8月）までは重要案件も多いと予想されるので委任状を認めたい」との提案が行われ承認しており、今回も適用された。

第13回国際連盟総会より帰りて

第13回国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）総会は９月18，19の両日マドリッド（スペイン）で開かれ36ケ国の代表が参加した。日本からは私と河内鋭雄海外駐在代表（在ミラノ）が出席、以下に今総会の主要点を御報告しておく……。

渡辺和美
（日本協会副会長）



◇ミュンヘン・オリンピック問題

出場国の選出についてはすでに今春の世界選手権ベスト・エイトへ自動的に権利を与えるということが総会前の公報でも通知され、この総会では、残り八つのわくをいかにして選ぶか、その方法に議論の焦点が集められていた。

意見統一のため、総会に先立って前夜〝予備会議〟が、ＩＨＦ技術委のＣ・ワッドマーク委員（スウェーデン）の司会で行われ予想どおり初めから激しい議論の応しゅうとなった。特にＩＨＦ執行部案である「自動出場８、アジア、アフリカ、アメリカ各１、ヨーロッパ５」の「８―３―５」案と、スペインが主唱しスイス、フランスなどが同調した「全世界一区による予選大会〜プレ・オリンピック・トーナメント〜」案が対立した。

平行線のまま時間が経過、結論は総会にもちこすということになったが、この間、ＩＨＦ技術委のＳ・ペライ委員（西ドイツ）が『オリンピックにおいては各競技とも各大陸から参加することが習慣になっている』などの基本理念が説明された。

明けて18日から総会ははじまったが、予備会議を終えた深夜（17日）オランダを中心とする中央、南ヨーロッパ諸国約10ケ国が秘密会議を開くなど、裏面の動きもあわただしかった。

私もこの会議に出席を乞われ、アジアの立場からの発言を行った。

さて、総会でも、かなりの時間がかけられたが、結局「８―３―５」案と「プレ・オリンピックトーナメント（全世界一区）」案を投票によって決めることになり、「８―３―５」案に賛成が18ケ国「プレ・トーナメント」案に賛成が２ケ国、白紙14ケ国でＩＨＦ執行部の提案した「８―３―５」案が採択された。

白紙が14ケ国と多いのは、すでに自動的出場権を得た８ケ国は投票をさしひかえるようにというＨ・バウマン会長（スイス）の提案があったためで、実質的な白紙投票は６ケ国といえる。

この結果、日本はアジア大陸予選に出場することが義務づけられたわけで、その参加国は日本のほか韓国、イスラエルと発表された。

イスラエルはヨーロッパ・ゾーンに入るべく努力していたが、すでにＩＨＦ執行部の意志は固く、はっきり拒否された。

アジア予選の競技方法は各国総当り２回戦制で、一九七二年（昭47）三月末までに終了していなければならない。

予選期日については具体的指示はなかったが、一九七一年一月から三月の間、一九七一年十月から一九七二年三月の間の二通りが考えられるとされた。

この決定のあと、イスラエル代表と話合ったが、日本に遠征する予算がないから、なんとか補助を考えて欲しいと泣きつかれた。運営をいかにするかは韓国代表が遅参したため具体的な協議はできなかった。総会終了後にやっと洪淳泰氏（韓国協会副会長）に会えたが『東京に３ケ国が集ってやるのもよいだろう』と云っていた。

なお、会場（コート）についてはイスラエルが総会の正式議題として「屋外での開催」を提案したが、「世界選手権とその予選ならびにオリンピック予選以外ならば屋外の国際公式試合も許可する」という決定になり、したがってオリンピック予選は、室内で定められた広さ（40ｍ×20ｍ）と明かさ（最低300ルックス）のコートで行われなければならない。

イスラエルには該当する施設がないように聞いていたが、同国代表は『ある』と断言した。

アジア予選の審判員についてはＩＨＦ技術委のＩ・クンスト委員（ルーマニア）が、同委がヨーロッパから二つのペア（計４人）を送るからそれを受け入れて欲しいと語っていた。

余談になるが、ヨーロッパ大陸予選には16ケ国が出場、この総会

でその組み合せも決まるという早手まわし（注・本誌23頁参照）だったが、競技方法は16ケ国がスペインに集り、予選。準決勝リーグのあと順位決定戦を行う。参加のための経費はスペイン協会が負担するということである。これはスペイン協会が申し出たもので、おそらく一九七二年三月に実施されるだろう。

昭和49年、東独で世界男子

◇世界選手権問題

5月の開催国立候補〆切りまでに名乗りあげがなく、そのなりゆきが心配されていた第5回世界女子7人制選手権は、結局オランダが引きうけることになり、会期は来年12月10日から20日までと正式に決まった。

また、次の男子世界7人制選手権（第8回）は一九七四年（昭49）に東ドイツで行われることも決められた。一九七六年（昭51）のモントリオール・オリンピック（カナダ）については特に話合いはなかった。このほか、ユーゴ協会から2～3年の間かくで世界ジュニア選手権を男女とも開くようにという新提案があり可決された。第1回の期日などは未定。

◇新加盟国問題

コンゴ・キンシャサ、コンゴ・ブラザビル、メキシコ、マダガスカル、カメルーン、オート・ボルタ、クウェートの7ケ国が仮加盟国から正式会員（加盟国）になることが承認された。

また、台湾、トーゴ、ファローエチオピアの4ケ国が仮加盟国として多数の承認を得て決まった。リビア（仮加盟国）の昇格は保留された。

◇役員問題

H・バウマン会長の留任が異議なく承認されたあとチャールス・P・モンゴベール首席副会長（フランス）の引退申出が報告され承認、後任にP・ヘグベルク次席副会長（スウェーデン）の昇格を認めた。

1名空席となった副会長については8名の理事を選出してそのなかから次席副会長を選ぶことになり、まず理事選挙が行われた。

現理事7名のほか各国から推せんされた4名の立候補者を加え11名のなかから8名選出となり投票の結果、17票以上を得たI・マダラッツ（ハンガリー）、H・ミリアス（東ドイツ）、F・ペダーセン（デンマーク）、F・ボセク（チエコ）の現理事4名の留任とアルバード・S・ロマン（スペイン）N・ペイロウ（フランス）、M・ファダリ（アラブ連合）の新任がまず決まり、残る1名をめぐって再投票を行いW・クリムソン（ソビエト）が加った。

この8理事のなかから次席副会長の選挙となり、決戦投票二回の末、アルバート・S・ロマン氏に決定した。

技術委員会のスタッフについては、異議のある国があるかどうか問われ、問題なくE・ホルル委員長（スイス）以下R・リキャルド（フランス）、A・アーン（デンマーク）M・フランダー（ユーゴ）C・ワドマーク、S・ペライ、I・クンストの6委員の留任が決まった。

◇その他

IHF加盟費の値上げが提案され可決。来年度から競技人口三万人以上の国は千八百スイスフラン一万人以上三万人までは千二百スイスフラン、一万人以下は六百スイスフランということになった。

次回第14回総会はミュンヘン・オリンピック直前ニュールンベルグ市（西ドイツ）で開かれる。

渡辺副会長に聞く

第13回総会に出席された日本協会・渡辺和美副会長は9月28日帰国したが、今回の出席でうけた印象と感想を次のように語った。

『オリンピック予選の問題が主要議題とあってかなり白熱した雰囲気だった。

各国とも総会には毎回ほとんど同じメンバーが送られて来ており議事の進行や発言にも慣れている日本は、今までの申し送りもなく苦労した。反省すべき問題だと思う。

懸案の役員（理事）立候補は、あらかじめ充分な根廻しを行う必要がありすくなくとも16ケ国以上の同意を〝獲得〟しておかねばならない。また、立候補は自分で表示するのではなく、他国の推せんというのがIHFの習慣で今回はまったく発言のチャンスがなかった。

理事選挙の結果、アラブ連合からの理事が当選したことを西欧諸国は不満としており「これなら日本を理事に推せばよかった」という人もいたほどだ。次回には当選の可能性もあると思う。

7名の理事のほかに各大陸に1名づつの理事を置くよう提案してもよいだろう。

バウマン会長も、ゼネラル・セクレタリーのA・ワグナー氏（スイス）もこの考えに同意してくれて、文書で通告（提案）して欲しいといっていた。

全体的な印象としては、今春の世界選手権で10位に入ったこともあり、日本に対して敬意を払ってくれていることを強く感じた』

初の日韓社会人交流

愛媛クが遠征

日本協会では初の日韓社会人交流として11月6日から韓国のソウル市などで5試合を行うことになり、日本代表として全日本実業団4位の住友化学菊本製造所が主体となって「愛媛クラブ」を編成、遠征する。

今回の交流は、全日本実連が近い将来「東南アジア実業団選手権」を開く布石として韓国協会と折しようしていたもので当初は実業団対抗の形が採られる予定だったが韓国実業団球界の状態が未だしのため社会人対抗と銘打たれることになった。

代表チームの選こうは、前号既報のとおり、全日本実連の手によって進められ、住友化学菊本を推せん、同社の申し出などもあって「愛媛ク」というチーム名に変った。

選手団は別表のとおり役員4、選手13の計17名で、オリンピック予選問題などのため日本協会・荒川理事長が団長で、今後の実業団交流打合せのため全日本実連・田中理事長が総務で同行する。

一行は11月6日16時40分大阪空港発の日航機で出発、ソウル、大邱、光州、全州の4都市で5試合を行い16日午後帰国の予定。

韓国遠征・日本社会人代表選手団

				身長	体重
団長	荒川清美	(49)	日本協会理事長		
総務	田中滋章	(34)	全日本実連理事長		
監督	佐藤道治	(50)	愛媛協会理事		
コーチ	上田　猛	(31)	住友化学菊本		
選手					
G　K	季原正明	(28)	尼崎産高―住化菊本	112.	60
	藤田　治	(18)	新居浜工―住化菊本	180.	73
F　P	神代正弘	(24)	宇部工―住化菊本	164.	55
	伊藤文人	(20)	下松工―住化菊本	166.	58
	平野　均	(22)	下松工―住化菊本	168.	57
	金剛昭夫	(21)	井波高―住化菊本	181.	72
	長嶺利昭	(27)	大淀高―住化菊本	174.	65
	加藤久勝	(26)	新居浜工―住化菊本	177.	67
	北山義広	(34)	坂出商―住化菊本	170.	70
	落海　勲	(27)	松江工―住化菊本	174.	65
	白石貴義	(22)	新居浜工―住化菊本	169.	65
	松井英喜	(28)	松山工―住化菊本	171.	67
	成行　猛	(22)	小野田工―住化菊本	165.	67
				cm	kg

×

韓国の社会人球界についてはほとんど資料がない。実業団チームも昨年あたりは「申フイルム」の活動が伝えられていたが、今シーズンは動きが少ないようで愛媛クの相手は結局各地の社会人選抜、大学OBになるのではなかろうか

韓国球界の主体は学生で、7月来日した成均館をはじめ慶熙、円光岑南大らがトップクラスとして上位を占めている。実力的にはOBの有力選手を加えた全慶熙大、全成均館大らが抜群。両チームと愛媛クが対戦すればオリンピック予選に一つのメドが与えられることになろう。

社会人の交流が果されたとともにその意味でも今回のシリーズは注目される点が多い。

なお、韓国協会では来春、女子実業団の白花酒造（ソウル）と日本の実業団の対戦を希望している。

梨花大（韓国学生女子）との交流は延期　全日本学連

全日本学連では、韓国協会から今年12月、韓国女子学生界のトップチーム・梨花女子大を日本に遠征させ、日本チームと親善試合を行いたいとの連絡をうけたが、各校ともシーズン・オフになることや体育館事情など受け入れ態勢が万全でなく来年度以降に見送りたい旨返電した。

洪・韓国協会副会長が来日

韓国協会・洪淳泰副会長はスペインで開かれた国際ハンドボール連盟総会の帰途、日本へ立ちより日本協会・荒川理事長らと会い、非公式ながら今後の両国交流、アジアハンドボール界の確立などについて話しあった。

洪副会長の話『オリンピック予選としてアジア地域が独立したのは懸案のアジアハンドボール連盟結成にまたとないチャンスになるだろう。日韓交流としてこれまでの学生男子、高校男子に加えて11月に社会人（実業団）の対戦が実現したのは嬉しい。一日も早く女子の親善試合を行いたいものだ。

東京に来る前タイペイに立ち寄り台湾球界の一端をのぞいて来た大変熱心で、われわれのよい仲間ができたと喜んでいる。10月に韓国と台湾の小学校が交流する構想があったが来年に延びた』

日本協会,〝アジア連盟〟に慎重

積極的な韓国、台湾球界の態度

ミュンヘン・オリンピックのアジア予選が行われることになり、にわかに脚光をあびて来たのが「アジア・ハンドボール連盟」（AHF）の結成問題だ。果してAHFは短時日のあいだに発足できるだろうか。探ってみよう。

▽……日本協会の周辺はたしかにAHF結成機運がただよっている以前からの韓国の積極的な態度さらには台湾協会の発足、そして今回のアジア予選……。

にもかかわらず日本協会は、これまでにいちどもAHF問題を常務理事会などで正式議題にしたことはない。

日本協会内部には、各国の情勢も判らずにAHF結成を働きかけることは無理だ、というみかたがかなり強い。また、国内問題を優先させるべきだとする意見が多いのも事実である。

▽……国内問題優先はともかく、日本が各国の実情を心配するのはAHF結成後その事業に協力するだけの能力があるかという点だ。

韓国球界の実力者・洪淳泰副会長へ卒直にこの質問をしてみたら『たしかにその不安はある。しかしAHFの結成で逆に国内の関心を高めさせることもできる。その可能性が強いからこそ急いで組織造りをする必要があるのだ』と答えた。

台湾協会の宋内堂副理事長は8月来日の際『台湾国内の結束もたしかにまだ時間がかかろう。しかしAHFが生まれるようなら台湾からホンコン、インドネシア、シンガポールなどにハンドボールの種を蒔くのが容易となる。アジアに仲間をふやすことは大きな問題だし、できるだけ早いほうがいい』と云っていた。

▽……こうした情勢から推すと日本協会さえ動き出せばAHFはすぐにでも役員名簿ぐらいは揃いそうだ。

日本協会としても、今年7月の日韓学生（成均館大来日）、8月の日韓高校（新居浜工遠征）に露われた判定解釈の相異を重要視、この問題がキッカケとなってようやくAHFへの関心を示しはじめているが、積極的に構想を打ち出す気配はない。

ある消息通は「まず東アジア地区審判会議とでも銘打って韓・台・日でルール問題を話しあい、オリンピック予選の時にイスラエルを交えてその準備委員会をつくるといったことになるのではないか」とみている。アジアの盟主と自負する一方、日本協会のこの問題への態度は極めて慎重のようである。（X）

男子強化〃五輪〃に全力注ぐ

日本協会ではナショナル・プレイヤー（現在はオリンピック第一次候補選手と呼称）につづくクラスの男子選手強化についてかねてから検討を進めていたが、9月26日の月例常務理事会で、ミュンヘン・オリンピック終了まではすべてナショナル・プレイヤーの強化とレベルアップに力を注ぐべきだという意見が多かったため、少くとも今年度内はこの問題を白紙のままえおくことになった。

この結果、両会議に先立って行われた技術指導部総会（9月17、18日・東京）で男子強化対策としてまとめられた「12月19～21日の3日間、東京で高校、大学、一般の区別なく16～22才までの優秀選手FP47名（各県1名）とGK9名（各ブロック1名）を集め合宿を行う」計画も御破算になった。来年度の計画については未定。

なお、これまであいまいだったオリンピック対策部と技術指導部の関連は、技術指導部の意向で「オリンピック候補（ナショナル・プレイヤー）とそれに準じる選手の強化は一切オリンピック対策部が担当、技術指導部は全国の数多くの選手の水準向上と次の世代をになう選手の養成を受けもつ」ことを明確化、両部別個のものであるという性格を強めさせた。

全自衛隊連、日本協会加盟へ

今春正式発足した全自衛隊連盟は、近く日本協会へ加盟団体としての申請を行うことになった。

同連・富永理事長がこのほど日本協会へ打診したもので、来春2月の全国評議員会で審議される予定。承認されれば全日本学連、高体連、実連、教職連についで五つめの加盟団体となる。

喜井、大塚ら4人が2年連続
全国高校優秀選手決まる

日本協会と全国高体連ハンドボール部は10月23日、今年度の全日本高校優秀選手男女各15名を発表した。

男子では全日本高校優勝の新居浜工（愛媛）、準優勝の枚方（大阪からそれぞれ3名づつが推せんされ、女子では1位の水海道二（茨城）の主力4人が選ばれている

男子の喜井（新居浜工）、上村（中大附）、女子の岩崎（新居浜商）、大塚（栃木女）は2年連続の栄光。

○……男　子……○

▽GK（3名）

山田　章二（愛知松蔭・3年）
塩田　正信（新居浜工・2年）
藤井　信昭（枚　方・2年）

▽FP（12名）

喜井　美雄（新居浜工・3年）
曽我部和夫（新居浜工・3年）
入江　均（枚　方・3年）
松本　義樹（枚　方・3年）
上村　茂（中大附属・3年）
奥野　金弘（若　狭・3年）
吉田亮太郎（佐世保北・3年）
脇若　正二（加　納・3年）
川畑　幸永（愛知松蔭・3年）
寺西　清宜（小 倉 工・3年）
中野　康次（和歌山商・3年）
村田　幸男（明　星・2年）

○……女　子……○

▽GK（3名）

渡辺　久子（水海道二・3年）
仁藤　具絵（静岡城北・3年）
岩崎真理子（新居浜商・3年）

▽FP（12名）

富山恵美子（水海道二・3年）
谷沢　竜子（水海道二・3年）
谷沢　節子（水海道二・3年）
原川　美保（島 原 農・3年）
平喜　代美（島 原 農・3年）
森本　真弓（島 原 農・3年）
曽我部邦子（新居浜商・3年）
木内えり子（静岡城北・3年）
大塚　恵子（栃 木 女・3年）
山本　妙子（徳　山・3年）
寺尾　五月（土　居・3年）
中島しげ子（大 垣 南・3年）

11月7日に申し込み〆切り
今年の全日本学生選手権

第13回（女子第6回）全日本学生選手権は11月24日から28日まで大阪中央体育館を主会場に行われるが全日本学連はこのほどその大会要項を発表した。それによると大会申しこみの切りは11月7日、組み合せ抽せんは11月9日。

今年から男子は出場チーム数を32校に制限、前年度上位2校（日体大、中央大）が推せんされる以外に、各学連へ次のように割り当てられている。

▽東北・北海道　3▽関東　9▽北陸信越　2▽東海　4▽関西　7▽中国四国　2▽九州　3

日本協会44年度 一般会計決算報告

日本協会では10月10日の全国理事会、11日の全国評議員会で昭和44年度（44年4月1日～45年3月31日）の一般会計の収支決算を別表のように報告、承認をうけた。

いっさいの特別会計をなくし帳薄の一本化をはかった最初の年であったが、約一千万円の赤字。これは強化費として44年5月～7月の全日本男子のヨーロッパ強化遠征（合宿）経費（約八百万円）が含まれているためである。この〃持ち出し〃で前年度までの資産は一気にソコをついたことになる

このほか、これまで別会計となっていた本誌の印刷製本費も印刷費として一般会計に組み入れられた。雑収入、雑損失の大半は昭和40年度にさかのぼっての未精算整理によるもの。別途積み立て中のオリンピック基金は昭和44年度分を含めて総額八九三四〇六円となった。

昭和44年度日本協会 一般会計決算

収入の部	
科目	金額（円）
加盟金	420,000
登録金	1,779,728
オリンピック基金	173,300
検定料	1,325,000
審判料	210,000
大会参加料	96,000
ルールブック	95,800
体協補助金	3,198,100
購読料	1,982,201
広告料	740,000
寄附金	922,325
雑収入	3,573,815
全日本選抜	495,980
合計	16,012,274

支出の部	
会議費	493,818
旅費交通費	1,680,015
通信費	1,395,870
分担金	189,794
印刷費	2,702,230
大会講費	108,320
事務税費	13,740
消耗品費	326,946
人件費	920,110
備品費	148,664
賃借費	294,900
大会助成金	785,000
編集取材費	200,000
強化費	10,224,933
予備費	134,460
雑損失	1,551,138
全日本選抜	426,893
世界選手権	3,839,667
合計	26,036,498

当期損失金	10,024,224

第25回国体（盛岡市）

ワクナガ、全愛知破り初優勝（一般男子）

大阪、高校男（21年ぶり）女（16年ぶり）を制す

教員は埼玉初　大洋デパート破竹の3連勝

誠実・明朗・躍進をスローガンにかかげた第25回国民体育大会ハンドボール競技は10月11日から15日までの5日間盛岡市の岩手県営グランドに全国の予選を勝ち抜いた5部門73チームが参加して行われた。

大会は、かってない波乱の連続となり、一般男子では常勝・大崎電気（埼玉）が10年連続優勝の大望を準々決勝で坐折させられ、初優勝をかけたワクナガ薬品（大阪）と全愛知の決勝はワクナガが前半のリードを活かして快勝、大阪へ11年ぶり（7度目）にタイトルを持ち帰った。

高校男女は番狂せが相次いだが結局、大阪代表が両部門とも制勝する偉業を遂げた。男子は第4回（昭24）の天王寺高以来21年ぶり5度目、女子は第9回（昭29）の寝屋川高以来16年ぶり6度目の優勝、高校女子で選抜チームが優勝したのは初めてのこと。

教員は埼玉教員クが宿敵大阪イーグルスの5連覇を阻んで初優勝、東日本に初めて栄冠をもたらした。

各部門の激斗に比べて一般女子は予想どおり大洋デパート（熊本）が破竹の試合ぶりで快勝、3年連続5度目の優勝を飾るとともに、九連続全国大会制覇という快記録をマークした。これで同チームの〃2年連続四冠王〃はかなり色濃いものになった。

注目の総合得点争いは大阪府が文句なく優勝（4年ぶり9度目）、女子得点でも大阪府が熊本県の3連勝を阻み16年ぶり4度目の首位となった。

大崎、10連勝の夢成らず

一般男子（30チーム）

▽1回戦

東都ク（京都）19（10—7, 9—7）14 東北学院大OB会（宮城）

全愛知 28（10—6, 18—7）13 熊本ク（熊本）

住化菊本（愛媛）22（11—9, 11—7）16 光電工業（群馬）

東京スターズ（東京）31（17—3, 14—3）6 富士レジン（兵庫）

日新製鋼呉（広島）27（14—2, 13—13）15 北陸電力（福井）

函館青雲ク（北海道）17（10—8, 7—7）15 下北手ク（秋田）

常盤工業（岐阜）31（12—9, 19—8）17 全福岡

本田技研（三重）14（8—5, 6—5）10 氷見ク（富山）

AOK栃木（栃木）37（17—8, 20—11）19 青森マツダ・ク（青森）

丸善石油（和歌山）26（14—6, 12—6）12 高松ク（香川）

全岩手 21（9—12, 12—7）19 海上自衛隊鹿屋（鹿児島）

田原外郎ク（山口）23（12—5, 11—9）14 奈良ク（奈良）

全神奈川 19（9—4, 10—11）15 金沢市民ク（石川）

千代田印刷機製造（千葉）22（7—6, 15—5）11 東根球友会（山形）

○……注目の田原外郎ク×奈良クは前半15分までは期待どおりの接戦となったが、田原クは16分吉村のゲットを口火に広井、稗田らが連続7ゴールを奪って26分には10—3と差をつけた。奈良クも巧く試合を運んでいたが、肝心のところでパスミスなどあり、実力を充分出し切れず敗れた。前半ノータイムで得たFTを鳥井が相手ディフェンスの壁を巧みにかわしてゴールしたプレーは鮮やかだった。

○……全岩手×自衛隊鹿屋は全岩手がスタンドを埋めた約一千の地元ファンの声援に固くなり、前半はまったく拙い試合をした。

先制した鹿屋は後半も奥原、沢山の巧プレーで6分には14—10と優位をつづけたのだが、そのまま逃げこもうと消極的になったのがいけない。ベテラン北村の好リードから全岩手は工藤、新里らで追いあげ19分16—16から2得点して逆転、その後はがっちり主導権を握って押し切った。

○……常盤工業×全福岡は、立上り常盤が高橋のロングを主武器に優位に立ち相手の機先を制した策戦が奏効、千代田印刷機製造×東根球友会は東根がいちどは3点差をつけたが、千代田は後半持ち前の攻撃力で快勝した。

実業団同士の住化×光電工業、日新×北陸電力は住化、日新が攻守に一日の長を見せた。

クラブ勢も精いっぱいの健斗で特に全神奈川に最後まで食下った金沢市民クや、本田を苦しめた氷見クらの試合ぶりは好感がもてた

AOK栃木、本田技研降す
丸善石油全岩手を破る

▽2回戦

大崎電気（埼玉）33（13—5, 20—7）12 京都ク

全愛知 21（9—9, 12—5）14 住友化学菊本

AOK栃木 30（10—7, 20—10）17 本田技研鈴鹿

丸善石油下津 18（7—6, 11—5）11 全岩手

東京スターズ 35（18—6, 17—7）13 日新製鋼呉

全神奈川 19（9—11, 10—3）14 田原外郎ク

常盤工業 22（12—5, 10—7）12 函館青雲ク

ワクナガ薬品（大阪）21（11—1, 10—6）7 千代田印刷機製造

○……AOK栃木が前年3位の本田技研を破った。特筆ものである前半は互角の戦況で進んでいたが後半になると栃木はベテラン・板屋を軸として山田、黒岩、小竹

らが速攻、ミドル攻撃と多彩な試合運びを見せ加点、一方の本田は栃木の厚いディフェンスをセットから崩しにかかったが、あまりにもそれにこだわりすぎ、挽回のチャンスがないままに押し切られた。
栃木の気力にあふれた攻守は鮮やかであった。

○……来年の国体開催地と地元の顔合せ――丸善×全岩手は、勝負をかけた後半、丸善が相手ミスにつけこみ堤本を中心に刀弥、松本らでポイント、制勝した。
全岩手は、攻守に固さがのぞきしばしばタイミングのずれから得点機を逃したのがひびいた。リードマンの北村が前日の試合でうけた負傷にもめげず大健斗していただけに他選手にもう一押しの気力が欲しかった。

○……全神奈川×田原クももつれた。田原は前半、吉村、梶山らの活躍でリードを奪ったが、神奈川は押されながらもじっくり反撃の機会を待ち、12分北村の同点シュートをきっかけに連続5ゴールを決めて逆転した。田原にとっては悔やまれる試合で、後半早々相手が7MTを2回も失敗するなど気落ちしていた時に追加点をとれなかったのが痛かった。

○……有力チーム同士全愛知×住化はピックアップチームと単独チームの〝層と力の差〟がはっきり出た。住化は前半、全愛知の切り札・野田（オリンピック候補）のシュートを巧みに封じる一方、加藤、伊藤、金剛らが好シュートを放ちタイで終った。しかし後半になると全愛知は藤中（オリンピック候補）、安藤らが巧みなコンビネーションプレーで一気に勝負をつけた。住化の善戦が賞される一戦で、特にGK藤田の好守が光った。このほかの4試合は順当。

岩手（全岩手）対和歌山（丸善石油），今来年の国体開催地同士の対戦は丸善石油が制勝

東京スターズ、常盤に快勝

▽準々決勝

東京スターズ 29（15―9 14―6）15 常盤工業

【常盤】	得		【東京】	得
日比	0	GK	綿貫	0
森	0	GK		
渡辺	1	FP	藤原	9
高橋	6	FP	渡辺	1
大野	1	FP	高野	6
山田	2	FP	大西	2
丹羽	4	FP	小山	5
石丸	0	FP	浅野	3
西	1	FP	鈴木	0
堀内	0	FP	手島	3
高木	0	FP		
	(2) 15	7MT	29 (0)	

（審・中井、川口）

○……東京は全員がよく走り、常盤のディフェンス陣をゆさぶり藤原、高野、浅野らが立ちあがりから速攻と左右45度からのジャンプシュートで得点、特に17分から10分間に連続9ゴールした多彩なプレーは鮮やかであった。
常盤は攻撃が単調で散発的に得点を返したにとどまった。長身の高橋にボールを集め得点を狙った策戦を東京の守りに封じこめられ最後までシャープなプレーを見せることができず敗れた。（熊田）

丸善石油下津 37（17―7 20―4）11 AOK栃木

【丸善】	得		【栃木】	得
堀江	0	GK	小林	0
大森	0	GK	菊地	0
岸本	0	FP	田崎	5
辻井	4	FP	板屋	4
三木	3	FP	黒岩	4
松本	2	FP	落合	3
刀弥	2	FP	左藤	3
堤本	0	FP	小竹	7
小川	0	FP	小沢	2
上辻	0	FP	山田	2
兼子	0	FP	宮田	7
	(0) 11	7WT	37 (3)	

（審・佐野、岡前）

○……この大会絶好調の栃木はGKを除く全員得点という快攻でベストフォアへ駒を進めた。
栃木は開始早々あっさり2ゴールを奪って丸善の出ばなをくじきスローペースに誘おうとする相手を寄せつけなかった。
宮田、小竹らのテンポの早い攻撃はみごとで前半で勝負は決まった。丸善は選手層がうすくプレーも若さがのぞいて完敗だった。（柳井）

ワクナガ薬品 27（12―10 15―3）13 全神奈川

【全神奈川】		得		【ワ薬】	得
高橋	（全神奈川）	0	GK	今井	0
佐藤	（日進商会）	0	GK	杉野	0
林	（日本鋼管）	3	FP	市原	2
出口	（日進商会）	3	FP	木野	6
大山	（日進商会）	1	FP	早川	2
北村	（日本発条）	2	FP	高橋	5
中村	（セントラル自）	0	FP	森	3
若崎	（セントラル自）	0	FP	戸田	4
植木	（三春台ク）	4	FP	松井	1
尾島	（三春台ク）	0	FP	久保	1
峯	（セントラル自）	0	FP	藤井	3
	(1)	13	7WT	27 (3)	

（審・関川、熊田）

○……ワクナガはさすがに強い。

木野、早川の両オリンピック候補を要にした布陣は、攻撃力よりも守備面で十二分にその真価を発揮した。

その厚い守りは全神奈川のポストプレーを完全に読んで、巧みなパス・カットからの速攻で連続10ゴールするなど、一方的な経過になった。

後半、若手に切りかえたワクナガのシュートが雑になり決定力を欠いたのは対し、全神奈川はロングとポストプレーで得点し善戦したが、前半の大差をくつがえすには遠かった。（岡前）

全愛知 19（8−5、11−9）14 大崎電気

【大崎】		得
GK	下里	0
FP	西村	1
	近藤	5
	籏野	0
	東	3
	谷口	1
	佐藤	0
	林	1
	沢口	0
	井上	3

【全愛知】			得
GK	柳川	（大同製鋼）	0
	柴田	（中京ク）	0
FP	戸谷	（大同製鋼）	0
	野田	（大同製鋼）	4
	藤中	（大同製鋼）	11
	千葉	（三友工業所）	2
	加藤	（大同製鋼）	0
	安藤	（中京ク）	0
	西村	（大同製鋼）	0
	松浦	（桜丘会）	2
	細川	（新日本製鉄）	0

（審・上田、柳井）

19（4）7MT（1）14

○……第16回（昭36）以来無敗（37連勝）の大崎が遂に敗れた。

試合は立ちあがりから緊迫。1分全愛知が中央から野田が巧みなシュートで先行すれば、大崎もすかさず近藤（オリンピック候補）が返した。

しかし、大崎は近森を渡独させさらに、飯田（オリンピック候補）を欠くためか、いつになく攻撃が単調で、そのうえシュートミスも多く得点機を逃していた。一方の全愛知はその間に着々と加点、大崎も近藤、西村、井上などベテランがよく頑張り一度はタイスコアにしたが、愛知も藤中の好プレーで前半8−5とリードした。後半に入り全愛知は2分10−5としたが、大崎も食いつき近藤、井上のカットインなどで9−10まで追いあげた。愛知は野田−藤中の息の合った見事なスカイプレーを決めて11−9と主導権をはなさず、さらに野田の冷静な好リードでこのピンチをよく切り抜けた。

大崎は最後までシュートミスが目立ち、終盤は疲れから帰陣も遅くなった。全愛知のたくましさが印象づけられた一戦。

なお、大崎が学生以外のチームに敗れたのは40年5月の千代田印刷機製造戦以来。この時は主力が中共に遠征して留守軍で戦っていたもので、全国大会では第15回国体(昭35)準決勝で桜丘会(愛知)に敗れたのについで2度目。(佐野)

▽準決勝

健斗のAOK栃木、力つく
全愛知は東京スターズ制す

全愛知 25（14−4、11−11）15 東京スターズ

【東京】		得
GK	綿貫	0
FP	藤原	3
	渡辺	0
	高野	4
	大西	0
	小山	0
	浅野	4
	鈴木	0
	手島	4

【愛知】		得
GK	柳川	0
	柴田	0
FP	戸谷	0
	野田	8
	加藤	0
	安藤	3
	西村	1
	松浦	4
	千葉	1
	細川	2
	藤中	6

（審・上田、柳井）

25（3）7MT（0）15

○……開始30秒全愛知は中央から藤中がクリーンシュート、つづいて2分東京のパスミスを速攻に結びつけ野田がゲット（2−0）。東京は藤中の〝当り〟をとめようとしていたが、巧者を揃えた全愛知は野田、安藤が好プレーをつづけ特に巧みなパスとハンドリングによるポストプレーは鮮やかだった。

後半になって東京は愛知の選手交替のスキをついで浅野らが得点を返したものの、前半でうけた傷は大きく、しかも愛知GK陣の堅守で連続ゴールがあがらず押し切られた。全愛知の快勝だった。（岡田）

ワクナガ薬品 31（13−9、18−6）15 AOK栃木

○……連日の健斗で大会を盛りあげて来たAOK栃木。

条件の悪いクラブであり乍ら3連勝、そのうち2勝は実業団からである。今日の相手は手強い。しかしどのような試合ぶりを見せるか、注目のうちにスローオフ。

【栃木】		得
GK	小林	0
	菊地	0
FP	田崎	3
	板尾	2
	黒岩	1
	落合	2
	左藤	0
	小竹	3
	小沢	0
	山田	2
	宮田	2

【ワ薬】		得
GK	今井	0
	杉野	0
FP	市原	5
	木野	3
	早川	6
	森	6
	高橋	5
	戸田	3
	松井	1
	久保	1
	藤井	1

（審・石切山、岡田）

31（1）7MT（1）15

はたして栃木は元気いっぱいのプレーをみせた。ワクナガにセット・オフェンスの乱調がみられたとはいえGK小林の絶妙なプレーをバックに互角にわたりあった。

だが時間の経過とともに攻撃力の差が現れはじめた。

特に後半になると、市原を主砲とするワクナガのコンビネーションプレーが完全に立ちなおりワンサイドとなった。

はなされてもなお反撃の機をうかがう栃木も、攻撃の決め手がなく、厚味のある相手ディフェンスをくずすだけのスピードにも欠けて惜しくも敗退した。（鈴木）

3位東京、4位にAOK

▽3位決定戦

東京スターズ 25（11−6、14−6）12 AOK栃木

○……ポストプレーから先制点をあげた東京は栃木の単発攻撃に助けられ、GKの好配球により速攻から着々得点を重ね常に3−4点のリードをたもち前半を11−6で終了。後半に入り互いに点の取り合いとなり盛り上りのないままに終了。

両チームとも早朝のゲームのためか凡ミスが目立ちミスの多かった栃木が敗者となったゲームだった。ここまで健斗した栃木は賞讃に価するだろう。（森）

▽決勝

全愛知、先行許し惜敗

ワクナガ薬品 15（7−5、8−5）10 全愛知

【愛知】		得
GK	柳川	0
	柴田	0
FP	戸谷	0
	野田	2
	藤中	4
	加藤	1
	安藤	1
	西村	1
	松浦	0
	千葉	1
	細川	0

【ワ薬】		得
GK	今井	0
	杉野	0
FP	市原	2
	木野	2
	早川	4
	森	2
	高橋	2
	戸田	2
	松井	0
	久保	0
	藤井	1

（審・佐野、岡前）

15（3）7MT（3）10

○……ワクナガ薬品と全愛知（大同製鋼が主体）は全く始めての対戦。しかも優勝戦。全日本級揃いの両チームとはいえ、さすがに緊張のスタートであった。スローオフから両チームともに守りが堅く特にロングを警戒してか中央部が厚くポストとブロックの動きそしてパスをよほど早く廻さないとチャンスがつくれない。

○……6分30秒ワクナガは市原の中央ロングで均衡を破ったが、8分30秒全愛知も千葉が左サイドから決めてすぐ同点。同型のローリングオフェンスを展開する両チームだが、ワクナガの早い廻しとポストの動き、しかもロングシュー

ターが4名もいるのに対し、やや身長差に劣る全愛知はボールがしばしば止り、またポストが相手ディフェンスに完封状態であり、藤中の強肩か野田のサイドシュートに頼らざるを得ない。しかも野田は当っていない。これはむしろ全愛知の攻めあぐみを誘ったワクナガの試合運びが一枚上であったといえよう。全愛知は16分左サイド一杯からの藤中のシュートで一点差まで追いついたが遂に一度もタイに持っていくことはできなかった。

○……ワクナガは木野がよくリードし、早川、高橋がそつなく動いたことも勝因の一つ。

残り5分で4点差をつけられた全愛知は焦りをみせ、速攻のボール出しに凡ミスをつづけてGK柳川の好守にむくいられなかった。

前半はかなりエキサイトし、退場すれすれのプレーが数回見られたが、後半はクリーンな展開で決勝戦らしいムードをいっそうひきたてた。

両チーム力いっぱいの健斗をたたえるとともにワクナガの初優勝を祝福したい。（岡村）

大洋デパートの堅陣ゆるがず

一般女子（12チーム）

▽1回戦

大阪スターズ（大阪）9（4―4／5―4）8 全和洋（秋田）

ブラザー工業（愛知）19（10―1／9―1）2 室蘭ク（北海道）

全福井 12（4―3／8―5）8 徳山高OG（山口）

全岩手 8（5―1／3―1）2 高知ク（高知）

○……予想どおり大阪×和洋がもつれた。典型的なシーソーゲームで勝負は後半にかかった。たえず先手をとっていた和洋は後半もすぐ鈴木のゲットで5―4とリードしかし大阪は細川で5―5のあと7MTを田井が決めて初めて優位に立ち、さらに松井の巧い攻撃で7―5。

和洋も藤井のゴールで追撃したが、大阪は12分のピンチをGK小林が鮮やかに防いだばかりか攻撃陣へ好パス松井が決めて8―6。

小林の美技が勝利につながった和洋は8―9からタイムアップ寸前、高橋が絶好機をつかみながら転倒する不運もあり、惜しい試合を失った。

○……全福井×徳山は、後半いちどは徳山がリードする場面もあったが、福井は鈴木―高木のコンビですぐに反撃、制勝した。

その他の2試合は順当な結果に終った。

重機、ブラザーを制す

▽準々決勝

大洋デパート（熊本）29（14―1／15―3）4 大阪スターズ

東京重機（東京）15（7―8／8―5）10 ブラザー工業

田村紡（三重）18（9―3／9―0）3 全福井

大崎電気（埼玉）11（6―1／5―4）5 全岩手

○……注目の東京重機×ブラザーは、試合かけ引きに一日の長ある重機が古佐原の活躍などでブラザーにたえず先行していた。

15分すぎブラザーGKの負傷退場を境にエキサイトした展開となり、女子実業団上位戦の激しい角逐をまのあたりに見せたが、重機のスピーディな動きは後半もおとろえずブラザーは惜しくも敗れた

このほかの試合はまったく一方的。実業団とクラブの置かれている立ち場を考えれば当然の結果であったが、今年ほど「国体一般女子から実業団をはずしてはどうか」という声が多く聞かれた年もない。特に記しておきたいと思う。

実業団のベストフォア独占は6年連続。

大崎電気、田村紡を破る

大洋も進境の重機を一方的

▽準決勝

大洋デパート 15（8―3／7―2）5 東京重機工業

【大洋】得			【重機】得
0 小原	GK		長岡 0
0 斎藤			
5 垂水	FP		滝口 1
1 米			長谷川 1
5 渡辺			鷺谷 0
1 三宅			牧野 2
0 島田			村上 1
1 枝尾			古住原 0
0 小林			市川 0
1 林中			蜷川 0
1 蔵田			
15（2）	7MT		（0）5

（審・佐々木兄弟）

○……立上りから両チーム気力充実、3分重機はフリースローから長谷川のロングシュートで先行すれば、大洋もたちまち7Mスローで同点。8分大洋はスローを決めリードしたところから本来の動きを取り戻し15分枝尾の速攻、19分には枝尾―垂水とわたったあざやかなスカイ・プレーでゲームの主導権は握り一気に引き離した。重機15分以後あせりが目立ちシュートにも精彩を欠き動きも止った。

○……後半に入っても大洋はよく走りコートを一杯につかってのオープン攻撃で着々加点していった重機もよく動き見事なポストを決めて加点したが、大洋のデフェンスとスピードの前に屈した。重機の進境と健斗を讃えたい。

（山田進）

大崎電気 13（6―2／7―6）8 田村紡

○……両チームの力は互角。勝敗の帰すうはディフェンスにあるとみられたが、はたして田村紡の守

得	【大崎】		【田村】	得
0	和田	GK	久保	0
0	小堀			
2	木幡	FP（審・藤田 山田）	三毛	2
0	新島		若林	0
8	寺尾		金田	0
1	三浦		渡辺好	4
0	長谷川		久保田	0
2	佐藤		辻	2
0	岩井		広森	0
			知念	0
			沖	0
13（1）		7MT		（1）8

りは大崎の動きにコンビをくずされ木幡の好リードからポストプレーを展開する大崎の攻撃にポイントを奪われて大崎優勢の試合運びとなった。

田村紡もしばしば得点機をつかんだのだがシュートが決まらず、点差をつめることができず、最後までそのままのペースで終った。

大崎の走り勝ちといえた。（岡田）

東京重機、初の3位入賞

▽3位決定戦

東京重機 22（9—4、13—10）14 田村紡工業

○……田村紡はパス・走りにスピードがなく、試合開始から重機にカットボール・速攻と連続得点を許し、5分までに早くも3—0と離され9分にも鷲谷に飛びこまれデフェンスの甘さを示した。田村紡は10分過ぎに広森の強引な左からのロングシュートで得点をあげ16分、18分、20分と連続ゲットを決め4—6とせまったが、再びパスミスからつけこまれ、傷口を広げた。

後半に入るや、重機は牧野のロングシュートや村上らのクイックプレーで加点、田村紡も前半よりは、動きに鋭さが加ったもののディフェンスのつめの甘さはなおらず、結局攻守のバランスのとれた重機が初の3位を決めた。（熊田）

大崎、全日本につづき敗退

▽決勝

大洋デパート 16（8—2、8—4）6 大崎電気

得	【大洋】		【大崎】	得
0	小原	GK	和田	0
0	斎藤		小堀	0
5	垂水	FP（審・岡村 永井）	木幡	1
0	米		新島	2
6	渡辺		寺尾	1
0	三宅		三浦	2
2	島田		長谷川	0
3	枝尾		佐藤	0
0	小林		岩井	0
0	村中			
0	蔵田			
16（0）		7MT		（0）6

○……全日本総合（8月・和歌山県打田町）につづいての決勝での対戦。この時は大洋が11—4。大洋は開始直後カットから枝尾が走ってポイントをあげ、続いて4分、8分渡辺がゴール前中央のジャンプシュートと早いセットプレーから巧みなシュートを決め、10分にはエース垂水がフリースローからジャンプシュート、あっというまに4—0とした。大崎はボールをまわすが、動きが悪く、シュートミス、パスミスなどを連発していたが13分寺尾がカットインで決めてようやく点をあげた。

○……後半に入っても大洋の速い動きはおとろえず、ポストを使って渡辺が決め、そのあとも全く大洋ペースで順調にポイントをかせぎ、一方的なゲーム展開となった。後半の半ばから大崎もカットイン・ポストなどのプレーで反撃したが及ばず完敗した。大崎は精神的に大洋に敗けていたのかシュートにも力がなく、王者大洋デパートに胸をかりるつもりで、捨て身でぶつかればもっと興味ある決勝戦となったであろうと惜しまれる。（佐野）

新居浜工の〝2冠〟成らず

高校男子（10チーム）

▽1回戦（2試合）

全秋田 22（10—8、12—5）13 中大附属（東京）

全静岡 18（9—3、9—9）12 福岡選抜

○……中大附属があっ気なく敗れてしまった。出場のたびに優勝有力といわれる同校だが、またしても期待を裏切った。

前半はたがいに1点を争うせりあいだったが、秋田は8—8から前半終了まぎわの連続ゴールで優位に立った。後半、中大附の反撃が注目されたが個人プレーが多いうえにミスが多く、勢いにのる秋田は高橋、由利、菅野が豪快なプレーで加点、予想外の大差がついた。

静岡×福岡は前半、静岡がGK鈴木の好パスアウトを浜田、森らがよく決め、追いすがる福岡を振り切った。

新居浜工、辛へも抽せん勝ち

▽準々決勝

新居浜工 14（9—6、5—8、0—0、0—0）14 全秋田
引き分け

岩国工（山口）20（7—9、13—3）12 函館有斗（北海道）

全岩手 15（4—6、11—7）13 富山選抜

全大阪 13（8—6、5—4）10 全静岡

○……新工×全秋田は、新工が動きの鈍い全秋田のディフェンスをポストプレーやロングで破りリードを奪った。ところが、後半、逃げ切りを策したか、攻守に積極さがなくなり、全秋田の反撃をうけ終了1分前にタイに追いつかれてしまった。

延長後は、明らかに両チームとも固くなりノーマークを互いにはずすなど得点をあげることができず引き分け。抽せんの結果、新工に幸運がまいこんだ。全秋田の粘りが賞される。

○……他の3試合も激戦だった。岩国×有斗は同型のチームカラーで一進一退のプレーがつづいたが、立ちあがり乱調の岩国工はしだいに地力を発揮、山川らを中心に後半7分に逆転、そのまま押し切った。

岩手×富山は、岩手は前半、富山の巧みなチームプレーにペースを乱されたが、菊池悟の長身からのポイントで追いこみ、後半は守りが立ちなおって逆転への足がかりをつくった。

富山はリードを得てかえって消極的になったのがまずく、15分タイにされたあとは、地元の声援に元気づいた相手の攻撃を防ぎ切れなかった。

大阪×静岡は、大阪が静岡の甘い守りをついて6—0と好調にスタート。静岡もそのあとよく粘ったものの、あまりにも立ちあがりの失点が大きすぎた。

▽準決勝

新居浜工 19（10—6、9—5）11 岩国工

○……それぞれ自己の持ち味を活かし、終始そのペースを守りながら戦っていた。

新居浜工は強肩のエース喜井を要とした厚みのある攻撃と全日本高校優勝の自信でたくましさも増しこのゲームも前半15分の劣勢か

得	【新工】		【岩国】	得
0	蝶野	GK	藤岡	0
0	城賀本	FP（審・岡村 永井）	中崎	0
4	神野		藤本	5
2	吉本		坂本	1
1	曽我部		大森	0
5	杉山		山川	1
5	喜井		島谷	2
0	矢野		岩本	2
0	加藤		大村	0
2	土井		森重	0
19	（1）	7MT	（2）	11

ら連続6ゴールで逆転、一気に相手をつき放すと云うあざやかな攻守を見せた。一方、岩国工はセットプレーがうまく、速攻よりむしろその持ち味を活かそうとしたが結果は新居浜工に走られた。

しかもフォローのろまい走りに点差を空けられてしまった。両者の力の差は点差に見られるほどでなく、わずかな岩国工のミスがこの差となった。セットプレーにミスがあってはならぬ。ミスは逆襲と云う致命傷を受けると云う事を肝にめいじなければならないだろう。（中沢）



国体の主役はなんといつても地元，全岩手対富山選抜（上）と全岩手対長野選抜（下）～いずれも高校の部～



大阪選抜 17（5—6 12—2）8 全岩手

○……立ちあがり岩手は菊池悟のロングシュートなどで先制、大阪は、10分すぎから枚方勢のコンビプレーで18分に初めてリードを奪ったが、岩手もよく攻め6—5と点差をキープした。

後半になると大阪は巧みなセットプレーで逆に試合のペースを奪い、いったんリードすると、あとはまったく一方的に岩手を攻めたてた。

得	【大阪選抜】		【全岩手】	得
0	北川（堺工）	GK	細田（盛岡商）	0
0	藤井（枚方）		今野（盛岡一）	0
0	山本（都島工）	FP（審・日野 中西）	菊池悟（盛岡一）	3
0	和気（枚方）		高橋（盛岡一）	1
2	入江（枚方）		本田（盛岡商）	2
4	松本（枚方）		折壁（盛岡商）	2
2	楠田（池田）		菊池正（盛岡商）	0
4	岡野（枚方）		伊勢（盛岡商）	0
5	戸田（佐野工）		松館（盛岡四）	0
0	川原（枚方）		武藤（盛岡四）	0
0	長栄（枚方）		渡辺（盛岡商）	0
17	（1）	7MT	（0）	8

岩手は184㎝のエース菊池悟にボール集めすぎ、しかもゴール前では横パスが多く、後半は20分間ちかくチャンスらしいものがなかった。

大阪のGK藤井はインターハイの時から足を痛めているが、この大会でもそのようなハンデを一つも顔色に出さず好プレーを見せているのはみあげたもの。（岡村）

全岩手、岩国工破り3位

▽3位決定戦

全岩手 17（12—5 5—5）10 岩国工

○……開始早々岩手は、エース菊池悟のフリースローから10分までに3—0とリード。以後両チームに基本的ミスが連発、特に岩国の速攻チャンスでのパスワークの乱れが目立った。

4—0とされたあとに岩国は調子をあげ岩手ディフェンスのもろさとカットプレーから20分に4—5と逆転、前半5—5で折りかえす。後半になって岩手に全員の動きがみられるようになり、攻撃にも変化が出て着々得点、後半15分には14—8と岩国をつきはなした。地元の声援に応えた岩手、特にエース菊池悟の活躍は見事であった。（森）

大阪、終盤に追いつき逆転

▽決勝

大阪選抜 13（8—6 5—6）12 新居浜工

得	【大阪】		【新工】	得
0	北川	GK	蝶野	0
0	藤井		塩田	0
0	山本	FP（審・中井 川口）	城賀本	2
2	和気		神野	1
2	入江		吉本	0
5	松本		曽我部	1
0	楠田		杉山	4
1	岡野		喜井	3
2	戸田		矢野	0
1	川原		加藤	0
0	長栄		土井	1
13	（2）	7MT	（0）	12

○……インター・ハイと合わせて2冠を狙う新居浜工に対して、枚方高を主力とした全大阪の対戦はともにのびのびとした試合運びで高校生らしい爽やかなゲームを見せてくれた。

新居浜工のすべり出しは快調、6、8分に喜井が正面からロングを決め、試合の主導権を握った。

大阪は攻撃が単調に流れていたがGKに藤井が入ってからは守りも立ちなおり一進一退の戦況となった。新居浜工のGK塩田も再三にわたって大阪の好シュートを阻む。

新居浜工は喜井の巧みなボールさばきとゴール前のローリン・グフォーメーションで5—3、大阪も17分に中央スカイプレーを見事に成功させ、さらに20分松本の単身ドリブルで5—5。しかし新居浜工は喜井の豪快なジャンプシュートで6—5と再びリードした。

○……後半になると大阪ディフェンスは鮮やかなフットワークによ

るポジションチェンジで新居浜工の動きに対抗したが、新居浜工のオフェンスも左右のゆさぶりで得点機を見出し、後半15分には2点差、そのまま逃げ切るかにみえた。

○……ところが、新居浜工はそのあと珍しく凡失がつづき、最後の力をふりしぼる大阪は、松本の出足のよいカットプレーとドリブルワークから反撃、23分12―12に追いつき、24分30秒、右サイドから和気が劇的な逆転シュートを決めた。

ともに力いっぱいの健斗で、迫力にみちたすばらしい決勝戦だった。（岡村）

有力チーム、あいつぎ敗退

高校女子（11チーム）

▽1回戦（3試合）

岐阜選抜 8（5―1 / 3―3）4 小禄（沖縄）

長野選抜 11（4―4 / 7―1）5 北海道

涌谷（宮城）11（6―2 / 5―5）7 熊本選抜

○……小禄（おろく）の試合ぶりに興味がかけられたが、緒戦とあってか緊張、そこを岐阜はセットから巧みについて着実に加点した。

後半になって小禄もようやくブロックプレーなどで得点機をつかんだが、ロングシュートが決まらず前半の点差をくつがえすまでにはいたらなかった。

○……長野×北海道は、長野が森本のミドルを中心に4―1と先行そのままのペースで進むかにみえたが、前半終了まぎわ北海道は山口、坂上、高橋らの好プレーで一気においついた。

しかし、後半になると再び長野の攻守にテンポが戻り荻原の活躍などで点差を開いた。

○……涌谷×熊本は涌谷の走り勝ちだった。涌谷は熊本のディフェンスがまとまらぬスキをよくついて竹内、遠藤、内田らが好シュートを放ち、要所で得た2本の7MTを平沢が確実に決めて前半をリードした。

後半、熊本は懸命の攻撃をしかけたが涌谷も応戦、快勝した。

水海道二主力の茨城敗る

▽準々決勝

全大阪 10（5―1 / 5―2）3 全広島

岐阜選抜 6（1―2 / 3―2 / 0……0 / 2―0）4 茨城選抜

長野選抜 7（5―2 / 2―1）3 全岩手

新居浜市商（愛媛）10（5―4 / 5―3）7 涌谷

○……インター・ハイ優勝の水海道二を主力とした茨城が延長の末岐阜に敗れた。

茨城は前半、岐阜が調子の整わぬスキをついてアヘッドしたものの、追われる立ち場を意識してか動きは悪く、はたして後半、岐阜の速攻と7MTで得点を返され延長にもつれこんだ。

延長に入ると両チームはいっそう緊張、特に茨城は攻守に浮き足だっていたようで逸機、後半ようやく岐阜がわずかに走り勝ち山崎の好技で大殊勲をあげた。

○……2連勝を狙う新居浜市商は涌谷とテンポの早い好試合を演じた。飯尾の活躍でリードを奪った新商は後半も速攻、サイド攻撃で加点したのに対し涌谷は11分までノーゴール新商はこのすきにがっちり主導権を握った。

強力な布陣とみられた全広島は大阪のロング攻法にまどわされ、後半も反撃に転じかかったところで森本が退場させるなど最後までチグハグな試合運びで敗れた。

長野×岩手は、長野がすばらしい走りをみせ、荻原―森本のコンビプレーを中心に加点、快勝した。

新居浜商連勝の夢消ゆ

▽準決勝

全大阪選抜 7（3―4 / 4―0）4 新居浜商

○……立上り大阪は巧く先取点をあげるも新居浜もロングシュートと米スローで3―1とリード、中盤に入り大阪は吉元、辻江の身体を利したロングシュートで盛り返し3―3の振り出しにもどした。新居浜はチャンスメーカーの曽我部の負傷欠場が大きく影響しいつものコンビプレーも精彩を欠きエリヤー前のフリースローにこだわりすぎてやたらチャンスをつぶしていたのは惜しい。

○……大阪は選抜チームの欠点とされているコンビプレーを克服し終始意気の合った攻守を展開、後半12分小柄ながらカンの良いプレーを見せる二村の鮮やかなカットプレーで同点、さらに焦りの見える新居浜のディフェンスの虚をつきポストプレーから2得点をあげ追いすがる新居浜を振り切り決勝進出を決めた。新居浜はリードすべき好機に得た7米スローのチャンスを2度も落したのがあまりにも大きい。（中西）

【新商】	得		【全大阪】	得
岩崎	0	GK	吉川（大谷）	0
出雲	0	FP	岡西（大谷）	0
飯尾	2		浅田（大谷）	0
林	0		二村（大谷）	1
曽我部	1		吉元（大方）	4
森実	0		辻江（大谷）	1
岡本	0		西塚（枚谷）	1
白石	0		乗正房（住吉学園）	0
中岡	1		長田（鶴見商）	0
中津	0		諏訪（清友）	0
	4	7MT (1) / (0)		7

（審・小松 中沢）

岐阜選抜 6（2―2 / 4―2）4 長野選抜

【長野選抜】	得		【岐阜選抜】	得
山越（小諸商）	0	GK	島岡（大垣南）	0
曽我（小諸商）	0	GK	小池（益田）	0
岩月（小諸商）	0	FP	山崎（益田）	3
高橋（小諸商）	1		篭橋（大垣南）	1
岩崎（小諸商）	0		翠（本巣）	0
森本（小諸商）	0		熊崎（益田）	1
内堀（小諸商）	0		杉山（本巣）	0
荻原（小諸商）	2		中島（大垣南）	1
清水み（小諸商）	0		笹田（大垣南）	0
清水啓（小諸商）	0		水谷（大垣南）	0
土屋（上田城南）	1		若松（大垣南）	0
	4	7MT (0) / (0)		6

（審・梅野 森）

○……開始すぐ長野はサイドからのシュートを決め2点を先取し長野ペースになるかと思われたが、5分過ぎ岐阜は山崎のミドルシュートが決ってから漸く立ち直り8分には同点とした。その後は両チームとも攻めあぐみの状態で無雑作なシュートが多く見られ2―2の同点で前半を終了。後半に入り岐阜は山崎が45度からのミドルシュートを決め、しばらく続いたこう着状態を脱し、長野の動揺をついて加点した。それに対して長野は良くボールを廻し乍ら鋭い突込みを見せ反撃したが岐阜の固いディフェンスにはばまれ、シュートが決まらず苦戦、6―4で岐阜選抜の制勝に終った。実力的には両

チームとも技倆伯仲であったが、わずかに岐阜が山崎、篭橋を中心によくまとまったプレーを見せたことが勝因となった。長野のシュートの決まらなかったことが惜しまれた。（永井）

3位に長野選抜 新居浜商4位

▽3位決定戦

長野選抜 12（8－3、4－4）7 新居浜商

○……長野のチームプレーが際立ち、1分荻原のゲットを口火に、その後も高橋、土屋らがつぎつぎ加点、新居浜商にまったく立ちなおるスキを与えなかった。

後半になって新居浜商はようやく互角に試合を進めたものの、前半の失点があまりにも大きく完敗してしまった。長野の3位入賞は初めて。その健斗を大いに讃えたい。（上田）

全大阪、前半のリード活かす

▽決勝

全大阪選抜 9（5－1、4－3）4 岐阜選抜

【岐阜】	得		【大阪】	得
島岡	0	GP	吉川	0
小池	0	GP	石黒	0
山崎	0	FP	岡西	2
篭橋	1	FP	浅田	1
翠	1	FP	二村	0
熊崎	0	FP	吉元	2
杉山	0	FP	辻江	4
中島	2	FP	西塚	0
笹田	0	FP	乗正房	0
水谷	0	FP	長田	0
若松	0	FP	諏訪	0
4	（1）	7MT	（1）	9

（審・中西・日野）

○……ピックアップチーム同士の決勝は初めてのこと。チームとしてのまとまりが勝負のポイントとみられた。

開始早々大阪はパスカットより速攻に出て吉元のシュートより得点、岐阜も5分すぎ7mスローを得て1－1。しかしその後は大阪の早いつぶしにあい、攻撃もシュートに結びつけることが出来ず、又コンビプレーもみられず無得点に終る。守りが好調の大阪は早いパスまわしにより機を見ては辻江のミドルシュートや、ポストプレーもまじえて効果的な攻撃を重ね、5－1とリード。

○……後半に入って岐阜も立ちなおり、フェイントやカットインにより反撃したが、大阪も応戦して主導権をはなさず追いすがる相手をふりきった。両軍を通じ警告4名、退場2名という記録が示すとおり、ややラフプレーが多かった点が残念である。（中井）

埼玉教員の初優勝成る

教員（10チーム）

▽1回戦（2試合）

愛知教員 32（17－2、15－8）10 秋田教員ク

熊本教員団 23（13－8、10－12）20 福井教員

▽準々決勝

岩手教員 30（15－7、15－6）13 山口県教員団

埼玉教員ク 17（9－6、8－9）15 愛知教員

香川教員 18（7－6、11－7）13 北海道ベアーズ

大阪イーグルス 26（11－10、15－6）16 熊本教員団

▽準決勝

埼玉教員 35（22－4、13－6）10 香川教員

【香川】	得		【埼玉】	得
片岡	0	GK	高橋	0
高橋	0	GK	細野	0
井	1	FP	高田	7
今田	0	FP	上久保	3
津谷	0	FP	北井	6
石原	3	FP	結城	3
松原	0	FP	河住	1
槇井	4	FP	中島	6
飯間	0	FP	高戸	9
横田	0	FP	金子	0
松本	2	FP	宮岡	0
0	（11）	7MT	（0）	35

（審・岡田・石切山）

大阪イーグルス 20（11－6、9－10）16 岩手教員

【岩手】	得		【大阪】	得
石杜	0	GK	広川	0
		GK	島崎	0
高田	5	FP	東	0
藤沢	0	FP	井上	4
中島	1	FP	松尾	2
石川	2	FP	青木	6
岩田	0	FP	奥浜	1
千葉	0	FP	北岡	0
熊沢	1	FP	木村	1
増田	1	FP	福井	2
谷藤	6	FP	樫塚	4
16	（1）	7MT	（3）	20

（審・鈴木・奥村）

▽3位決定戦

岩手教員ク 30（14－7、16－8）15 香川教員

▽決勝

埼玉教員ク 22（9－4、13－3）7 大阪イーグルス

【大阪】	得		【埼玉】	得
島崎	0	GK	高橋	0
広川	0	GK	細野	0
東	2	FP	金子	0
井上	1	FP	高田	6
松尾	0	FP	高戸	0
青木	2	FP	北井	10
北岡	0	FP	中島	0
奥浜	0	FP	結城	2
木村	0	FP	河住	1
福井	1	FP	上久保	3
樫塚	1	FP	宮岡	0
7	（1）	7MT	（1）	22

（審・佐野・岡前）

○……お互いに手の内を知りつくした宿敵同志の対戦となり接戦模様の展開を思わせたが、埼玉は動きが活発で上久保、北井、高田がサイド、中央、ポストと得点を重ねた

後半に入り大阪の反撃が期待されたが前半同様、動きが小さく、予想もしない大差がついた。埼玉の二冠獲得は教員界における不動の力をはっきりと示すものといえよう。（川口）

皇后杯、熊本の3連勝成らず

注目の得点争いは、天皇杯得点（総合）では3部門優勝の大阪府が第3日ですでにその首位を確定づけた。皇后杯得点（女子）は熊本有利とみられたが高校女子が無得点に終る番狂せがあったため、大阪府に優勝をさらわれた。一般女子（大阪スターズ）のポイントが殊勲となった。

▼天皇杯順位①大阪②埼玉③岩手④熊本⑤愛知・東京・愛媛⑧岐阜

▼皇后杯得点①大阪②熊本③埼玉・岐阜⑤東京・長野⑦三重⑧愛媛



中学校指導者講習会報告①

今回行われた中学校指導要領の全面改訂により球技種目のうちハンドボールが昭和47年より教材として復活することに決まった。

そこで改訂内容に盛られたハンドボールの具体的指導法をいかに進めたらよいかを理論面と実技面で講習し、併せて研究を行い，指導者としての資質向上を企ろうという趣旨で8月16，17日、日本ハンドボール協会主催、文部省・三重県教育委の後援、全日本教職員連盟の主管により四日市市体育館で各都道府県教育委を通じて申しこまれた22名と来日中の「台中県小中学校教師チーム」14名の特別参加を得て「第1回全国中学校指導者講習会」を開催した。以下にその報告を行います。

渋　谷　行　康
（全日本教職員連盟常任理事）

第一日　午前十一時より開講。まず荒川日本協会理事長、教連山田理事長の挨拶に始まり、若崎普及部長の日程説明があって講習会に入った。

最初に教職員選手権の決勝戦を観戦しながら技能、ゲーム運び、審判について説明し、続いて文部省教科調査官・梅本氏より改訂要旨の説明があり、懇切丁寧な指導に参加者一同充分納得できた。次に理論編として、中学校での段階的指導法について宇津野氏、中学校ハンドボール部員の体力について石井氏が豊富な資料により講演された。

実技に入り宇津野氏をチーフに渡辺、北川、西川各氏がグループに分れて、個人的技能指導法について統一指導をされた。参加者に経験者が多く、内容の消化も非常にスムーズで第一日目としてはかなり高度な指導法が展開された。参加者は年令的な層の巾はあったがいずれも意欲的であった。

第二日　九時から前日に引続いて実技に入り、集団的技能指導法について実施をやはりグループ指導で行った。

次にゲームと審判法に移り三ティームで交代にゲームをし審判もかなり手際よく運営された。昼食後は日程の関係で審判法とルールについての質疑を若崎部長を中心として行った。

質疑内容を抜すいすると、

1、ジャックルの取扱いをどうするか。故意に行われるものも反則としないでジャックルは反則からなくなったかのように感じている者がいるが……

2、ジャックルの競技用語をルールブックからはずしてあるが何故か……

3、ブロッキングの判定と、競技用語にないのに何故つかうか…

4、中学校用のボールは2号の皮革品と限定するのか……等質問が出された

その後再びゲームと審判法の実技を行い、協議会で今日の講習会内容についての話し合いがなされ若崎部長の講評の後閉講した。

段階的指導指導方法と実技について

若崎　重富・宇津野年一
担当　西川　勤也・石井　喜八
渡辺　慶寿・北川　勇喜

昭和47年度より実施される中学の新指導要領におけるハンドボールの取り扱い方、昭和46年を新指導要領への移行期として実施されようとしている中学におけるハンドボールをどのように指導してゆくか、このことについての今回の指導者講習会において、私共が担当した実技指導について、その内容の概略を報告いたします。

実技指導は第1日の午後の後段と第2日の午前および午後の審判技術の研修と併せて行なったゲーム練習などで約7時間程度の実技研修でありました。

実技指導に先立って、「段階的指導方法について」約15分程度の説明（担当宇津野）を行ないました。その内容は、今回の実技指導担当者が事前に研究討議した結果をまとめました「全国中学校ハンドボール指導者講習会技術指導についての資料」全26頁の資料に基ての簡単な説明であります。さらに、内容を具体的に示しますと、

I　中学におけるハンドボールの段階的指導法（1例）
1、おもな競技用語
2、Motivation exercise
3、簡単なゲームおよびゲームに必要な技能
①　個人的技能
②　集団的技能
③　ゲーム
4、個人的および集団的技能の練習法と隊形
5、ゲームについて

II　ハンドボール技能の系統
1、個人技能
2、集団技能
3、1と2から重点的な段階的指導図説

以上のようでありますが、実技指導は飽くまでも、新指導要領に示されている学習内容をふまえて興味をもって、楽しく行なうためにはどうあるべきか、という考え方を基盤として、講習会に参加されました指導者の皆さんが、実技研修の可能な範囲内で計画いたしました。

なお、ハンドボール指導の一環として「ハンドボールの施設、用具などについてのアンケート」を依頼しました。（次号掲載）

実技指導(1)　─個人技能─

実技指導は3グループに分け、全体のまとめを宇津野が担当した実技研修には台湾教員団が特別参加として1グループをつくり、渡辺が担当した。

1、準備運動（北川）
2、補強運動の紹介
①　小学校ハンドボール・スクールで実施されているいろいろな方法について紹介された。（西川）
②　Motivation exercise
ボディコントロールとボールコントロールの研修

3、パスとキャッチ

ショルダー・パス（オーバー・スロー）を中心に行ない、特に、スタンスの問題を取り上げて研修パスの隊形を変化させ、フェイント・パスまで発展。

4、ドリブル

連続ドリブルとワン・ドリブルに分けて行ない、特に、ワン・ドリブルについては、ワン・フェイント〜ワン・ドリブルを一連の技術として紹介した。この技術の習得が、次の段階におけるパス・ワークに関係することを強調し、3角パス（3人）にワン・フェイント〜ワン・ドリブルを加えて実施した。

5、走りながら行なうパスとキャッチ

立って行なう基本的なパス練習から、走りながら行なうパス練習に発展、その内容は、ラン・パスチェンジ・パス、FP間あるいはGK〜FP、で行なうワン・パスとゴール・スロー などを行なった。さらに、パス・ワークへの段階として、2列で行なうクロスのチェンジとクリスクロス・パスを研修した。

6、シュート

大別して、ステップ・シュートとジャンプ・シュートを行ない。倒れ込みシュートに対しては、段階的指導の一例を示した。シュート練習に加えて集団技能への移行として、カット・イン・プレーと直結させて行なった。

実技指導(2) ―集団技能―

1、準備運動

Motivation exercise を含めた準備運動

2、パスとキャッチ

3、ゴール・スロー

GK〜1FP、GK〜2FP

4、ゴール・キーパーについて（守備法と傷害予防について（アンケートでも解答を求めた）説明

5、6対6

6対6の練習に入いるまでの過程は、時間的な都合から省略し、6対6の攻防練習を交代して行なった。

6、審判について簡単な説明（若崎）

① ルールについて
② 笛の持ち方と笛の吹き方
③ 審判の位置と移動法について

昼食後、体育館ロビーで審判問題について、質疑応答をした。審判問題についての応答説明は若崎普及部長が担当した。

午後実技指導

1、ゲームと審判

ゲームを通じて審判技術の研修をした。ゲームは10分間ゲームと2点先取ゲームを行なった。

反省会と閉講式

2日間約4時間余の実技指導を行ないましたが、かなりの強行スケジュールにも拘わらず、今回の指導者講習会が、参加者の熱意によって、明るいムードで、実に熱心な研修態度に、担当した私共は身の引き締まる感を抱きましたし、自らの不勉強を痛感し、反省もいたした次第であります。

反省会では、今後未経験の指導者に対する講習会の実施、会期を考慮されたいなど、今後の中学指導者講習会に対する貴重なご意見を賜ることができましたことをありがたく思っております。

開講式につきましては、若崎普及部長より挨拶があり次回を期待して散会いたしました。

【講師所感】 ハンドボールにおける底辺拡充を考えるに、この様な指導者の養成は大切なことであるハンドボールという種目は教育的に秀れた要素をもっていることは周知の通りである。今日中学校指導要領に含まれる様になったことは、これを認めることになる。受講された先生方には、経験者が多かったが、何にかハンドボールが新しい教育の中に入れられたという喜びを持っている様で活気があった。今後、この様な講習会を行うには今回以上の準備をもち数多の人達にハンドボールの適切な指導を進めて行くことが大切であるその意味において今回の講習会は成功であったと思う。

（渡辺慶寿）

今回第一回中学校指導者講習会を開催したことは、対外的にも大きな意義があった。われわれは微力ながらも、これに参加出来たことを大変うれしく思っています。長い間の念願である改訂に当りハンドボールが取入れられ、そしてハンドボールが教育の一貫に責任をもつことは、増々発展するものであり、その意をうけてか、今回の受講者の態度には、それ等がにじみでていたようだ。今後もこの講習が多くの指導者に魅力あるものとし、積極的に参加する様なものにしたいと考えます。

特に末筆になりましたが、今回文部省梅本調査官が御多忙の中をこころよく参加され講義して下さったことは意義深いものがあり感謝します。

（北川勇喜）

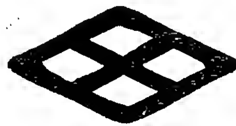
1級トレーナーに三浦、設楽氏

日本体協では8月6日から6日間、一級トレーナー中央講習会を開き、このほどその合格者を発表、日本ハンドボール協会推せんの三浦公設楽孝治氏も合格した。

また二級トレーナーとして加藤正彰、松本正昭両氏が合格。

訂正 本誌前号10頁左上、近藤克彦選手が渡独…とあるのは 近森克彦 選手の 誤りでした。

合 織 糸 ・ 合 織 混 紡 糸



田村紡績株式会社

社 長 田　村　正　衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 四日市 6—2156（代表）
郵便番号　5 1 2

第1回 コーチ研修会（技術指導部総会）報告

勝 繁 夫（日本協会技術指導部長）

技術指導部では第1回のコーチ研修会として、委員総会を9月17、18の両日東京・オリンピック記念青少年センターで開催した。

委員が出揃って間もないことであり、しかも準備期間が短かかったにもかかわらず実施できたのは北は北海道、南は沖縄までの各ブロック及び各加盟団体から積極的に参集していただいたことと、オリンピック対策部の村田、竹野氏の御協力によるものだと思う。まず各位に厚く御礼申しあげたい。

終会後の反省として、このような集会は毎年継続して開き、出来得る限り地方の現場のナマの声を採りあげ、内容的にもよりいっそう充実したものにし、再び地方に還元することによって全国の指導者及び選手層のレベルアップに貢献していきたいと考えている。

以下に今回の大要を報告しておきたい。(委員会の審議内容の主要点は前号に既報されたので省略）

▽第1日（9月17日）午後7時からおよそ2時間にわたってセンター内の体育館で行われているオリンピック第一次候補選手の強化合宿第2日夜の部を見学した。

練習内容は「防禦基本」としての

1、手の動作
2、踏み込みと詰めによる激しいアタックの基本練習
3、1、2との総合としての1対1、2対2の練習
4、シュートに対する防禦1対1
5、ゴールキーパーの高いシュートに対する防禦
6、ミドルシュートに対するゴールキーパーの守備
7、プロンジョンシュートに対するゴールキーパーの守備
8、その他

▽第2日（18日）午前9時から今春の第6回世界男子7人制選手権監督・村田弘氏（オリンピック対策部長）ＩＨＦコーチシンポジウムとユーゴ・ハンドボールスークルに出席した竹野奉昭（オリンピック対策部コーチ）、鈴木義男（田村防監督・技術指導部委員）の3氏からそれぞれの報告を聞いた。

【村田氏の報告】今回の世界選手権の上位8強の実力差はまったくないといってよい。どの国が優勝してもおかしくはなかった。ソビエが何故決勝トーナメントへ進めなかったは不思議でさえあるが、これはやはり同組のスウェーデンの活躍を高く評価すべきだと思う。また、予選リーグ各組の1位国が決勝トーナメントの1回戦で枕を並べて敗退したのは、各国が上位つまりベスト4　を狙ってかなり策略・かけ引きを用いていることを示すものだ。予選リーグで2位になる方が上位へ進めると判断すれば平気で主力選手を休ませる。それだけの層の厚さもある。

今後の日本ナショナルチームの進むべき道、対策と、日本ハンドボール界のトレーナーのありかたについてその努力を改めて決意すべきであろう。

【竹野氏の報告】シーズンごとにラフになっていくハンドボールのプレーを早急に「フェア」に戻すことがＩＨＦ講習会でしばしば強調されたのが印象的だった。

プレイヤー、トレーナーの自覚によって粗暴なプレーが姿を消さぬかぎり、ハンドボールが近代スポーツとして発展することはなかろうという論調もあり、そのせいでもあるまいが、今回、各国の高名トレーナーによって紹介された研究発表はすべて「防禦」に関するものであった。なお、同コーチシンポジウムの概要は本誌に逐次リポートする。（注・連載中の「コーチシンポジウム報告」参照）

【鈴木氏の報告】日本協会としてこのようなハンドボールスクールには今後必ず参加者を送るべきである。本場・ヨーロッパと遠隔なだけに問題も多いが、それ故に参加の意義は極めて大きい。一国の協会によってこれほど視模の大きい講習会（スクール）が実施されているのには驚ろかされた。講議の内容で注目されたのはボディ・コントロール、ボールコントロールのトレーニングが実に多彩で、現代トレーニングのありかたを示していた点である。

竹野氏、コーチに専念

オリンピック対策部では、オリンピック第一次候補選手を兼ねていた竹野奉昭コーチ（大崎電気）が、今後コーチに専念、ノンプレイングとなることを日本協会へ報告した。日本協会では9月26日の月例常務理事会で承認。これで、オリンピック候補選手は16名（GK3、FP13）となった。

★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

——藤本　強——

ルブキング、アマ違反？

今後の国際試合出場不能か

今月はまずショッキングな話題からお伝えしょう。

〝西ドイツの至宝〟ヘルベルト・ルブキングにプロ的行為があったのではないか、というニュースである。

ことのおこりは、ルブキングがジュニアの頃から永年住みなれたGW・ダンケルセンクラブから三流どこのTV・ネッテルステットクラブに移籍したことにはじまる

これには何かスキャンダルがあるといろいろ憶測されていたが、10月3日になり、西ドイツ協会はルブキングに対して叱嘖の意向を正式に明らかにしたことで多くの人々が知るところとなった。

西ドイツ協会が叱責したのは、この移籍に重大なアマチュア視程違反があったとする立ち場にたったもので、ルブキングの国際的な輝やかしい栄光は終ったとしている。

これに対し、ルブキンキ側では「なんらやましいことはない。アマチュア規程に違反している事実もない」と反論しているが、西ドイツ協会は正式に彼をナショナル・チームのメンバーからはずしてしまったし、この決定がくつがえされることはないだろう。

〝現代最高のプレイヤー〟〝世界のゲッター〟と名声を欲しいままにしたルブキングをめぐってのことだけに、今後のなりゆきが注目される。

ユーゴが首位　西ドイツ国際大会

ミュンヘン・オリンピック出場を決めた各国は、今シーズンを〝オリンピック対策の年〟として、若手中心のナショナルチームによる活発な国際試合を行っているが10月2日から3日間西ドイツで開かれた国際リーグもその意味で多くの注目が集った。

参加したのはユーゴ、デンマーク、チェコ、西ドイツの4ケ国。

ホルバト、プリバニク、ポイラヤク、ポポビク、ミルコビク、ラブルニク、GKアルスラナジクらの世界選手権3位のメンバーを残したユーゴの首位は順当といえたがチェコがすっかり若返り、話題となった。

マレス、ズーダらが姿を見せずハブリクを新主将に、ブルーナ、新人・ジャリイらが主力、緒戦でユーゴを破った。

チェコ	19—17	ユーゴ
西ドイツ	16—12	デンマーク
ユーゴ	25—17	西ドイツ
チェコ	16(分)16	デンマーク
西ドイツ	19—17	チェコ
ユーゴ	28—12	デンマーク

【順位】①ユーゴ②西ドイツ③チェコ④デンマーク

オーストリア、屋外の国際試合を廃止

オーストリアでは、11人制の国際試合を全く廃止することに決定した。最後の試合として、オランダのロッテルダムに於ける西ドイツ、オーストリア、オランダ三国対抗に参加し、大会終了後公式に発表した。なお、国内試合は引きつづき行なわれ、そのチャンピオンチームをヨーロッパカップには参加させるというのだから完全廃止とは云えない。しかし、ドイツ連邦共和国（西ドイツ）も来シーズン一年間だけとは云え、11人制のブンデスリーガを休止すると伝えられ（後掲）、もっとも11人制保存に積極的であったこの二つの国の動きは、今後の11人制ハンドボールの運命を象徴しているかのようである。

西ドイツも来年の11人制ブンデスリーガ中止か

ドイツ連邦共和国（西ドイツ）協会では、1971・72の両年ミュンヘンオリンピックのハンドボール候補選手が11人制ハンドボールの試合を行なうことを禁止すると決定した。

この結果、これらの選手の多くが参加している11人制ハンドボールのブンデス・リーガは中止されることになろう。

オリンピックをめざし強化につとめている西ドイツでこのような決定がなされたことは当然と云えば当然であろうが、11人制の総本山の西ドイツだけに、11人制の前途がますますけわしくなっていくであろうことが予想される。

VfL・グンメルスバッハ来日の希望を示す

西ドイツの名門クラブ、グンメルスバッハチームはこの度、1971年4月に日本へ遠征する計画のあることを明らかにした。

同クラブは1861年の創設、ハンドボール以外にも陸上、水泳体操、サッカー、柔道などの部門がある。ハンドボール部門は世界最強クラブの一つ。66年、67年、69年にドイツのチャンピオンチームになるとともに67年と70年はヨーロッパカップを獲得。ナショナルチームのエース・シュミットをはじめ、J・ブラント、K・ブラント、GKポダクらのナショナルプレーヤーを揃えている。また多くの移籍選手をかかえこんでいることでも有名だ。特に東欧国からの選手を多く擁しており、それらの国々との間にトラブルをおこしたことも再三ある。日本協会は11月の常務理事会で協議するが経費面（全額日本側負担）で実現は難しそうである。

ヨーロッパ予選組み合せ　ミュンヘン五輪

国際ハンドボール連盟は、ミュンヘン・オリンピックヨーロッパ地域予選（昭和47年3月、スペインの予定）の予選リーグ組み合せを次のように決め発表した。各組上位2国が改めて4ケ国づつに分けられ準決勝リーグを行い、その各組同位者同士が対戦、1〜8位を決め上位5ケ国がオリンピック出場権を得る。

〔A組〕アイスランド　ノルウェー　フインランド　ベルギー
〔B組〕フランス　オランダ　オーストリア　ブルガリア
〔C組〕スイス　スペイン　ルクセンブルグ　イギリス
〔D組〕ソビエト　ポーランド　ポルトガル　イタリア

新連載・コーチシンポジューム報告 ②

エミール・ホルル氏の講演

コーチシンポジュームの意味と目的

竹野奉昭 訳
（オリンピック対策部コーチ）

前回はIHFの第2回コーチシンポジュウムの概略をお伝えしました。今回からは各発表者の話を発表者の作ったプリントによりながら、やや詳しくみていきたいと思います。

今回はこのシンポジュウムの最初に行なわれましたIHF競技委員長エミール・ホルル氏(スイス)の話を伝えることにします。

エミール・ホルル氏はIHFの競技委員長を永くつとめている人で、ルール、技術、戦術といったハンドボールの競技に関することのすべてを取り扱っている競技委員会を司さどっており、世界ハンドボール界の技術面における〝シンク・タンク〟ともいえます。（竹野）

× × ×

このシンポジュウムは第二回を迎えている。近年このような形の会は流行になってきている。シンポジュウムというものは古代から行なわれている。古代ギリシヤでも、ローマでも、食卓をかこんで酒をくみかわしながらの討論をシンポジュウムと呼んでいる。これは飲むことが目的でなく、政治、哲学などの討論をすることが重要なのである。

我々はここに集まり、我々のスポーツ、すなわち、ハンドボールについて討論を活発にかわしたいと思う。ユネスコでも1970年は国際教育年としている。正にこの年にこの集まりをもったことはたいへん意義深いことである。

この1970年のシンポジュウムが盛会裡におわるだけでなく、今後のハンドボールのレベルの発展と洗練に力をかすものにしたいと思う。

スポーツの発展には身心共に発展を

スポーツは単に肉体だけのものでなく、精神、モラル、教育効果の面でも水準をあげていかなければならない。

これらすべてが満されたときに初めて、我々のスポーツもすべての面で豊かなものになってくるであろう。

1970年は世界選手権の開かれた年でもあり、ハンドボールにとってはきわめて意義多い年であった。

この選手権に参加した諸国の数年来の努力によって、多くのものがもたらされた。

積年の努力によって新しいものが見出されたし、このことによって従来のものを顧みることもされた。また我々のたっている現状を再認識し、将来の道を考えることもされた。

このシンポジュウムでは、現在ハンドボールの置かれている状況をしっかりとみつめ、遠い将来へ向っての将来計画をたてていかなければならない。

現在、世界は大発展の過程というよりも大変化の中にある。少なくとも連続的な変容をしつつあるのは確かである。

現在のこの変化に歩調を合せるためにも、ハンドボールにたいする科学的な研究が試みられなければならない。

ハンドボールの科学的研究は将来のために必須

IHFの競技委員会では、このための第一歩を4年前に踏み出した。

第一回のコーチシンポジュウムをスイスのマコリンで開き、ここには、19ケ国から75人の参加者と20人のオブザーバーが集り、熱心な討論をくりひろげた。

ここでは、ハンドボールに対し科学的検討を試み、多くの成果があった。

36年もの空白のあとで、ハンドボールはオリンピックゲームに再登場しようとしている。

このことは、このスポーツを発展させる契機ともなろうし、従来の努力に増して、発展させるよう努力しなければならない。

世界各国のハンドボールをプレーしている若者達と接触をもちつつ、現在のトップクラスのハンドボールの構造の解明をしていかなければならない。



ＩＨＦに加盟している諸国の間のハンドボール競技に対する考え方の差はそのままにしておくと消えるというものではない。また多かれ、少なかれ各国協会コーチ、レフェリーによってより定着の方向に進むものだ。

そこで、その考え方の差がいったい何に由来しているのかを究明し、それを一緒に発見し、互いに研究を進め、お互いにハンドボールのルネッサンスを迎えるようにすることを約束せねばならない。

ハンドボールを現代の一つの要素となるようにしなければならない。

ハンドボールにも現代の新しい教育を

現在の世界には、教育のために新しい技術の改新がなされていることを知り、それについて考えていかなくてはいけない。

我々はもはや従来の方法でハンドボールを教えることはできなくなってきている。これらの新しい方法を利用し、すべからく、新しいハンドボールの教育体系を整えねばならない。

若いハンドボールの選手達は明日のために多くのものを必要としている。ハンドボールでも他の多くの競技と同様に、種々の面で、電気の世界に足を踏み入れている

今日開発されている教育用の新しい手段をフルに活用して、教育を行なっていかなければならない

このことが達成されるならば、ハンドボールを人類文化の一部とみなすことも可能になろう。

現実と理想とはほどとおい！

しかしながら、現実は理想とはあまりにもほどとおい。

ここに新聞の一説を引用してみよう。

「選手はたがいに胸をつき、けりあい、なぐりあい、つかみあいをしている。観衆はおおいに失望する。観衆がみたいのはハンドボールなのだ。……

選手は常に反則動作の完成を心掛け、あるコーチ連はだきついたり、空手の手を教えている。そこで全てのチームは汚いプレーをはじめる。しかも反則をきわめて、巧妙にやってのけるので、レフェリーには見えない。『隠された肉体の傷』とでも呼ぶような行為があまりにも多い。……

ゴール前では、たがいにつかみ足を踏みあい、走るのを妨げ、ひじうちなども見られ、シュートしようとジャンプすれば、共にとびあがって、のどを狙い、胸を手刀で叩く。ジャンプシュートの際には更に足をひっぱる。そこでシューターは頭から床にたたきつけられたくないならば、自らおりざるを得ない……。

ゴールキーパーはゴールエリア外からゴールめがけてとびこんでくる選手によって常に危険にさらされている。

あるキーパーは攻撃側選手によってあごの骨を折られたことがある。

ゴールキーパーは下半身はプロテクターベルト、そして頭にはヘルメット・顔には丈夫なマスクが必要だといっている。何となげかわしいことだろうか。ロウ・ブロウという言葉がハンドボールについて使われるとは……」

もちろん、この新聞論調はいささか表現がオーバーにすぎているのではあるが、またこの論調にはハンドボールに対する隠された悪意もあるのではあるが。……

しかし、たとえこれが、全く真実ではないとしても、我々は現実にこのような実態に直面しているのもおおいようのない事実なのである。

新聞論調にこのような形のとりあげかたをされないようにするのは現実では全く困難である。

ではどのようにして、このようなハンドボールに対する悪口を防いだらよいのだろうか。

救済の道は唯一つ　コーチ洗錬あるのみ

唯一の救いの道はコーチの能力を常に開発することである。これ以外には方法はない。

ハンドボールの教育というのは単に肉体だけをやればいいものではない。他のすべての面を含めた教育をするのでなければ教育とはとても呼べない。

コーチは常に現代ハンドボールの質的向上に努力していかなければならない。

自己の全人的な人格を高めるとともに知識を深め、現在のハンドボールの水準を冷静かつ客観的に評価し、トップゾーンにある選手のプレーの質を高めるように努力するリーダーになるのがコーチの責務である。

これができれば、一流の選手は人に後ろ指をさされることもなくなろう。

人間の活動のハンドボール以外の面でも、このような形の考え方は必要とされているし、実行されていかなければならない。

ハンドボールを真の意味で生活の一部に

チームゲームを含んでスポーツというものは人類の生活から除けるものではない。

また、スポーツを人類活動から分離することも不可能である。

もし、ハンドボールが生活の一部をなしていないならば、人類生活向上に資させようとする我々の

意図はむなしいことになろう。

ハンドボールを生活の一部になるような形にどうしてももっていかなければならない。

というのは、現在では、異った学問分野、学派の人々がこぞって各種の水準でそれぞれの教育の向上をめざしている。

人間のすべての活動は生活を発展させ、人類の全存在に貢献するように全ての面で努力しているからだ。

ハンドボールがすでにのべたようなことに貢献できる可能性は何か。

幼稚園から大学まで、名も知られないクラブから世界的に有名な強豪のクラブまで、ハンドボールはありとあらゆる界属の選手にとって、人間の競技するという本能にピタリあうものになるようになり、老令になっても、人間活動と調和し、フェアプレーの精神をふるいたたせる形をとるものに我々のハンドボールをしていかなければならない。

フェアプレーは人類生活の基本的な要素でなければならないのは云うまでもない。

フェアプレーは食事や睡眠と同様に自然と身につき、人間生活に必須のものでなければならない。

ハンドボールは単に人間の肉体を作りあげるだけではなく、もっと広範に高度なものをめざさねばならない。つまり、精神、知性、性格をよりよい方向に発展させていくようにしなければならない。

スポーツに於けるフェア・プレーの精神は政治に於けるフェア・プレーの精神を混同してはいけない。

政治というものは他のものがもっていないものをいかにももっているかのように見せかけるものである。

ハンドボールにフェアの精神のふきこめ

ここで、ハンドボールが単に金メダルと勝利だけのものではなく人類の進歩につながるものにしていかなければならない理由があるのだ。

競技はその中に常にそれ自身のもつ価値をひそめ、また常に刷新する心構えをもっていなければならない。

健康な若人は常に刷新を望んでいる。これが若人がスポーツを好む理由なのだ。

若人は目的をめざし努力し、何か価値のあることをなしとげることを好むものである。

若人はチームスポーツがこれらのことを満足させ、チームメートとの協調を教えることを感じとっている。

チームスポーツの利点が単に身心の発展だけでなく、チームメートとの友情を育てるものであることを知っている。

競技に常に刷新の空気を絶やさぬように

刷新しようとする現象、競技を美しく表現しようとすることは、もっとも自然な法則であり、また永遠の法則でもある。日夜、毎シーズンいつでも、どのような水準にしても教育ということが関係している限り、このことは忘れてはならないことである。

最後に一つ指摘しておきたいことがある。

それは現代という時代についてのことである。現代は文化、社会その他の面で大きな転機を迎えている。これは同時に大きな危機でもある。

我々はこの大きな変革の時期に生きている。

若者は新しい理想を求めている若者が望んでいるものは我々のものとは大きく違っている。我々の理想はもはや受け入れられないのだ。

伝統というものはもはやセコハンとしてしかみなされず、したがって伝統は拒否される。

そこで、我々は新しい理想を見出さなければならない。また現在の価値、明日の価値を見出さねばならない。

そして伝統的価値を再吟味しておかなければならない。

現在では、発展をまのあたりにしている訳ではない。しかしながら発展させる中で積極的に努力しようではないか。

現在のハンドボール界の状況を再吟味することからはじめて、現在でも良いものと、変革もしくは改良していかなければならないものを見出し、対処していかなければならない。

このシンポジュウムのプログラムはすでに皆さんご存知のことと思う。

IHFの技術委員会はすでに述べたような目的のために、ここに参加している皆さんと一緒に討論し、少しでも、目的に近づくように努力できるのがたいへんに嬉しい

そして、私どものすべての友達に代り、ここに皆さんを招き、第二回のコーチシンポジュームの開会を宣言しよう。

第2回IHF国際シンポジウームは8月2日から8日までストックフォルムに世界22ケ国から41名のトレーナーが参加して開かれた。

日本からは本稿の訳者・竹野奉昭氏（オリンピック対策部コーチ）と鈴木義男氏（田村紡監督、日本協会技術指導部委員・自費参加）の両氏が出席、多くの新理論を得て帰国された。

ハンドボールの歩み（第23回）

〝ハンド〟ボールは四千年前から

～原始ハンドボール～

藤本　強

今回は従来と趣きをかえて、ハンドボールの起源を世界各地の大古にさかのぼってみることにしたい。

もちろん、すべての文献にあたっている訳でなく、手近にあるもののみで扱っていくので、多くの見落としがあろうし、また何らかの形で今日に伝わっていないものも多いので、ここにあげるよりも多くのものが今日に何の証拠も残さずに消え去ってしまったことは確実である。

世界最古のキャッチボールはエジプトの王墓の壁に

現在まで、私の知る限りでは、世界最古のキャッチボールとして遺されているのはナイル河中流域にあるエジプト王墓の一つベニ・ハッサンの壁画に描かれているものので、これが球技というものの現存する最古のものであろう。（写真参照）ここには、ほかに各種の競技の壁画が遺されている。

これは約四千年前のもので、これがどのような競技であり、どのような状態のものなのかは、現在では全く知る術もない。

とにかく、現在から四千年前にすでに、ハンドボールの基礎となるボールを投げる、ボールを受けるという基本動作が行なわれていたのは事実である。



ギリシャ・ローマにも似た形の球技が

このエジプトの壁画から、約千五百年の間、ハンドボールの原形となるようなものが行なわれていたかどうかは証拠が残っていないので判らないが、フェニキュアなどに受けつがれたか、あるいは、独自に発言したかは判らないが、ここらにも、残されていたらしい痕跡はある。

次にかなりはっきりした形で現われるのはギリシャである。

かの有名なホーマーの「オデュッセイ」の中にもボールを扱うシーンの描写がある。これはキャッチボールというよりもサッカー的な要素を含んでいるものである。

更にギリシャ（約二千五百年前）の浮彫の中に「ウラニア」という競技でキャッチボールのシーンが彫刻されている。この競技はサッカー・ハンドボール・ラグビーのあいのこのようなものであったらしい。

この浮彫の対のものには、ホッケーのようなスティックをもった球技のシーンや陸上競技のシーンも彫刻されている。

古代オリンピックの盛んであったギリシャで球技がこのような形でしか証拠が残っていないのはいささか淋しい。

これがエジプトの壁画とどのようにつながるかははっきりしない。

投げる、捕る、走る、跳ぶというハンドボールの基本動作

は人類の歴史上、このような証拠が遺されるずっと以前の旧石器時代から行なわれている動作である。

狩猟などは多勢の人間のチームプレーによって、走り、跳び、槍を投げ、更には獲物を捕えることは行なわれていた訳で、何もこのような形のキャッチボールが一元的に発生したと考える必要は全くない。

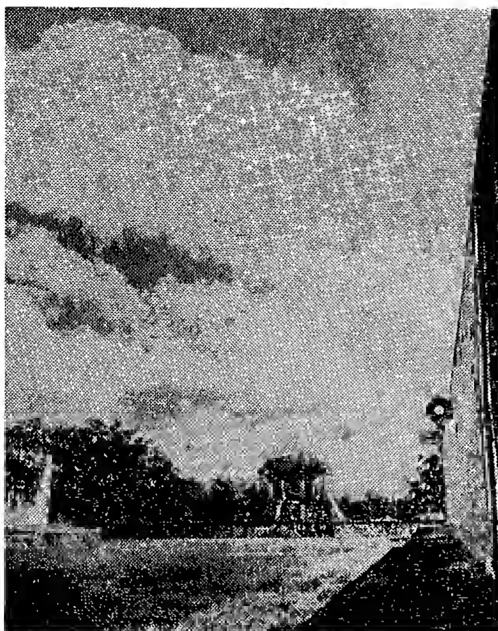
ローマでも、同様にギリシャからひきつがれた球技が行なわれていたことも確実である。

多くの詩の中にも残されているローマのスポーツというのはギリシャと考え方はかなり変ってはいるが同様の球技が行なわれていた。

エジプトの場合はどのような形であったが判らないが、ギリシャ、ローマのスポーツは今日のスポーツのありかたとはかなり異っていた。誰でも好きなスポーツを自由にやるという形ではなかった。

ローマでは、紀元後三～四世紀のシシリー島の離宮にやはりキャッチボールのモザイクが残されている。これは今でいうビキニ姿の乙女たちが種々のスポーツを行なっている所のモザイクである。

このあと、ヨーロッパなどではどのような形でこれらがうけつかれていたかは全く判っていない。


（写真）マヤ文化の古代競技場

中国でも漢代に球技

中国でも、漢代に〝弄丸〟と呼ばれる球技があったことが史書にも、画像石と呼ばれるものに浮彫が残されている。

これがどのような形の競技であったかは判らないが、東洋でも、約二千年前の漢代には、広い意味における球技が行なわれていたことがはっきりしている。

これがエジプト、ローマなどとどのような関係にあるかは明らかではないが、全く別に発生しものと考えたほうが自然であろう。

この後は良く判らない。

新大陸にも種々の球技が

新大陸にも、種々の国、いろいろな時代に各種の球技が行なわれていたことが、遺跡、伝承などから確認されている。

極北に住むエスキモーは鯨の皮製のボールを使って、ハンドボール、サッカーの間のような投げ、けるの要素の入った競技を行なっていたし、北米のインディアンの間には、ハンドボールとラグビーのあいのこのような形の競技が行なわれていた。これは大きいものになると長さ1㎞以上もある巨大なグランドを使用し、数百人が参加して、ボールを持ち、もしくはパスし、ボールをゴールラインの中にもちこむという競技である。

中米にも南米にも、大きな岩造の競技場が残されている。ここで球技が行なわれていたことは伝承によって確められていた。

以上のように世界の各地にハンドボールの基となるような競技が行なわれていたことはお判りいただけたと思う。

このように球技というのは、世界の各地に、非常に古くから行なわれている。

これらがどのような形で受けつかれてきたかは明らかでないが、17－18世紀のヨーロッパ諸国にはハンドボールのごく近い形の民間競技がかなりの伝統をもって行なわれていた。

たとえば、チェコのハゼナのような形の競技が、ハンガリーチェコなどの東欧諸国間に、またデンマークにはやや趣きを異にした球技が行なわれていた。

これらの中から、デンマーク、ドイツでハンドボールがめばえ、こうした民族競技をやや変えるだけですぐにハンドボールが普及した原因となったのである。

次回には発生期のハンドボールの歴史を見て、このシリーズを終了することにしたい。

各国のハンドボールの歴史をもふりかえってみたかったが、これはまた次の機会にゆづることにして、次回をもって、このハンドボールのあゆみを閉じることにしたい。ハンドボールというのは若い競技ではあるが、その伝統は決っして新しくないことがお判りいただけたと思う。

早慶ゆずらず 伝統の定期戦

秋のシーズン開幕を告げる第18回早慶定期戦は10月4日東京・早大記念会堂に二千をこす観衆を集めて行われた。注目の現役戦は、この一戦にかけた慶応の斗志が前半に実り4点差をつけたが、後半奮起した早大の反撃も鋭く同点で終了、初の引き分けとなった。対戦成績は早大の10勝7敗1分

▽高校戦（第12回）

早大学院 13（6－3 7－3）6 慶応

対戦成績は早大学院高の9勝3敗（＝2連勝）

▽OB戦

稲門ク（早） 18（9－8 9－7）15 三田ク（慶）

対戦成績は三田クの8勝7敗2引き分け（1中止）

▽現役戦

慶応 14（8－4 6－10）14 早稲田

得	【早大】	
0	山本	GK
0	吉田	GK
4	武藤	FP
1	高橋	FP
3	斎藤	FP
0	嶋田	FP
2	岩永	FP
0	長谷川	FP
3	加藤	FP
0	浦山	FP
0	伊谷	FP
1	渡辺	FP

得	【慶応】	
0	守田	GK
5	川島	FP
1	宮越	FP
2	市河	FP
1	堂之口	FP
3	福島	FP
2	名越	FP
0	岡田	FP
0	立田	FP
0	伊東	FP

（審・高野・藤原）

14（2） 7MT （3）14

山口大は大歯大を制す

第4回山口大―大阪歯科大定期戦は、8月30日山口大体育館で行なわれ、山口大が逆転勝ち、対戦成績を2勝1敗1分とした。

▽OB戦

山口大OB 13（4－7 9－5）12 大阪歯科大OB

対戦成績は山口大OBの3勝1敗

▽現役戦

山口大 16（5－9 11－6）15 大阪歯科大

得	【大歯】	
0	沢田	GK
8	樋口	FP
1	片山	FP
3	上神	FP
0	山口	FP
3	諸頭	FP
0	村田	FP
0	武田	FP

得	【山口】	
0	野口	GK
0	中島	GK
4	石田	FP
1	長田	FP
4	西岡	FP
5	楠	FP
0	梅田	FP
0	村重	FP
0	松本	FP
2	安積	FP
0	西本	FP
0	田辺	FP

16（2） 7MT （3）15

各地の記録

全和洋、3年ぶりに勝つ

第23回東北選手権は8月29、30日の両日福島女子高グランドで国体東北予選を兼ねて行われ、男女ともリーグ戦の結果、男子は東北学院大OB（宮城）が4戦全勝で女子は全和洋（秋田）が2戦2勝して優勝。東北学院大OBは6年連続、全和洋は3年ぶり2度目。

なお、岩手代表は国体開催県ということで予選を免除されていたためこの大会に東男女とも不出場

【男子順位】①東北学院大OB（宮城）4勝全勝②青森マツダ・ク（青森）3勝1敗③下北手ク（秋田）2勝2敗④東根球友会（山形）1勝3敗⑤福島SGク（福島）4敗

【女子順位】①全和洋（秋田）2勝②東北宗形製作所（福島）1勝1敗③仙台ク（宮城）2敗

（注）試合記録は本誌前号6頁所報

興南、小禄4度目の優勝

▼第7回全沖縄高校選手権（8月 沖縄）

▽男子準々決勝

浦添 7－3 那覇
沖縄 24－2 コザ
那覇商 15－9 中部工
興南 15－5 小禄

▽同準決勝

浦添 14－11 沖縄
興南 14－7 那覇商

▽同決勝

興南 13（6－3 7－4）7 浦添

興南は4度目の優勝

▽女子準々決勝

浦添 8－2 沖縄
興南 9－8 知念
那覇商 14－2 糸満
小禄 15－2 真和志

▽同準決勝

浦添 10－8 興南
小禄 11－4 那覇商

▽同決勝

小禄 12（3－4 9－4）8 浦添

天城と真備勝つ

▼第25回岡山県高校秋季大会（9月・倉敷商）

▽男子準々決勝

倉敷商 13－4 津山工
玉野 12－5 大安寺
天城 19－4 落合
児島 11－3 操山

▽同準決勝

倉敷商 14－11 玉野
天城 15－13 児島

▽同決勝

天城 13（5－3 8－7）10 倉敷商

▽女子1回戦（2試合）

金川 16－1 落合
井原 13－10 青陵

▽同準決勝

真備 14－8 金川
井原 8－7 津山商

▽同5・6位決定戦

落合 12－3 青陵

▽同3・4位決定戦

津山商 16－10 金川

▽同決勝

真備 15（6－2 9－2）4 井原

女子で徳山、いぜん強味

▼山口県秋季体育大会ハンドボール競技（9月・山口中央高）

▽高校男子準々決勝

岩国工 21－3 高水
下関一 25－10 岩国
下関西 14－9 山口
下関工 12－6 宇部工

▽同準決勝

岩国工 21－4 下関一
下関工 16－7 下関西

▽同決勝

岩国工 17（8－6 9－4）10 下関工

▽同女子準々決勝

徳山 21－4 高森
宇部女 6－4 高水
下関西 8－6 岩国
山口 8－6 徳山商

▽同準決勝

徳山 11－5 宇部女
下関西 5－4 山口

▽同決勝

徳山 11（6－5 5－3）8 下関西

▽一般男子8市対抗準々決勝（1回戦・3試合）

全山口市 23－12 武田薬品光
宇部高専 15－11 下松ク
山陽パルプ 20－8 出光徳山

▽同準決勝

田原外郎ク 14－10 全山口市
山陽パルプ 23－10 宇部高専

▽同決勝

田原外郎ク 16（7－3 9－9）12 山陽パルプ

一般男は自衛隊幹候生

▼第4回久留米市（福岡）選手権（9月・久留米工）

▽高校男子決勝リーグ

久留米工 20－3 南筑
南筑 14－13 明善

久留米工 25－4 明善
▽同女子決勝リーグ
明善 18－3 南筑
信愛女学院 8－1 南筑
明善 23－2 信愛女学院
▽一般男子準々決勝
自衛隊幹部候補生校A 22－9 久留米工ク
有明工専 18－17 明善ク
久留米工短大 20－9 自衛隊幹部候補生校B
ブリジストン・タイヤ 10－0 南筑ク
▽同準決勝
自衛隊幹部候補生校A 33－8 有明工専
ブリジストン・タイヤ 14－12 久留米工短大
▽同決勝
自衛隊幹部候補生校A 11（5－5 6－1）6 ブリジストン・タイヤ
▽同女子決勝リーグ
明善ク 19－2 信愛ク
信愛ク 10－6 南筑ク
明善ク 17－2 南筑ク

自衛隊勝田と新治ク

▼昭和45年度茨城県実業団・クラブ選手権（10月・茨城大）
▽実業団部門決勝リーグ
自衛隊勝田 23－9 日立製作所
原子力研究所 18－8 日立製作所
自衛隊勝田 18－12 原子力研究所
▽クラブ部門決勝リーグ
千代田ク 21－10 水戸工ク
新治ク 14－13 千代田ク
新治ク 21－8 水戸工ク

大同製鋼が全勝優勝

▼第17回愛知実業団リーグ（9～10月・名古屋市体育館）
▽1部
大同製鋼 28－8 ブラザー工業
日本碍子 25－21 トヨタ車体
大同製鋼 24－10 トヨタ車体
日本碍子 20－18 ブラザー工業
新日鉄 26－4 トヨタ車体
大同製鋼 35－14 日本碍子
新日鉄 29－7 ブラザー工業
トヨタ車体 20－10 ブラザー工業
新日鉄 29－12 日本碍子
大同製鋼 23－10 新日鉄
【順位】①大同製鋼4戦全勝＝2連勝②新日本製鉄名古屋3勝1敗③日本碍子2勝2敗④トヨタ車体1勝3敗⑤ブラザー工業4敗
【2部順位】①三友工業所5戦全勝②タヨシ産業4勝1敗③パイロット・インキ3勝2敗④豊田工機⑤三菱自動車⑥中部電力
▽1・2部入れ替え戦
三友工業所（2部）28－15 ブラザー工業（1部）

男子で清水が進出

▼昭和45年度千葉県高校新人選手権（10月）
▽男子準々決勝
八千代 22－16 雪解沢
清水 19－6 国府台
鶴舞 17－16 東邦
小金 10－9 木更津
▽同準決勝
八千代 17－11 鶴舞
清水 9－8 小金
▽同決勝
清水 13（6－4 7－5）9 八千代
▽女子準々決勝
昭和学院 20－1 東邦
八千代 不戦勝 和洋附国府台
木更津 17－6 小金
佐原女 20－2 鶴舞
▽同準決勝
昭和学院 9－3 八千代
佐原女 5－1 木更津
▽同決勝
昭和学院 7（4－1 3－1）2 佐原女

添上と生駒が優勝

▼奈良県高体総体ハンドボール（10月・添上高）
▽男子準々決勝
添上A 21－7 正強
桜井商A 17－16 奈良
生駒 16－11 畝傍
桜井商B 9－7 十津川
▽同準々決勝
添上A 19－3 桜井商A
桜井商B 13－10 生駒
▽同決勝
添上A 22（10－3 12－4）7 桜井商B
▽女子1回戦（1試合）
十津川 16－0 桜井商
▽同準決勝
添上 21－0 奈良文化女短大附
生駒 10－3 十津川
▽同決勝
生駒 11（3－2 8－2）4 添上

中学大会記録

▼昭和45年度京阪神3都市大会（8月）
▽男子A組
新北野（大阪）9－8 湊（神戸）
湊 13－4 洛星（京都）
新北野 14－8 洛星
▽同B組
高津（大阪）11－8 布引（神戸）
布引 15－6 八粂（京都）
高津 8－7 八粂
【順位】①大阪②神戸③京都
▽女子A組
苅藻（神戸）10－4 高雄（京都）
高雄 0－3 大谷（大阪）
苅藻 10－3 大谷
▽同B組
湊（神戸）10－3 皆山（京都）
大淀（大阪）15－2 皆山
大淀 4（分）4 湊
【順位】①神戸②大阪③京都

編集後記

□……最近、読者各位からの投稿が増えて来た。各地の記録への送信も決まったスペースを上廻る量になり、編集部としてもその処理に苦労しながら嬉しさはかくせない。

「機関誌にこの話を……」と心がけて下さる読者が多くなったことは編集子にとって何にもまして心強いのである。

□……このまま各位の御支持を得つづければ、第百号は72年8月、つまりミュンヘン・オリンピックの月に発行されることになる。

記念特大号の巻頭を史上初のオリンピック選手を送る原稿で埋めたいというのがわれわれの〝宿願〟だ。紙令は月日が経てば重なるが、オリンピック出場にこぎつけるには筆舌につくせぬ努力が要る。本誌もなんとかそのお役に立ちたいものだと思う。

□……それには、読者のかたがたからきたんのない球界への意見、情報が寄せられるのが望ましい。ためらわず、編集部あて御投函願いたい。

編集スタッフも、若い感覚を加えて一層の飛躍を期している。

われわれとともに「ハンドボール、ハンドボール、ハンドボール」で埋まった本誌を作りたいというかたがいらしたら、是非御一報下さい。（杉）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第八十一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十五年十月二十五日印刷 昭和四十五年十一月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
〒東京都渋谷区神南一ー一ー一 大代表(467)三一二一
振替東京五八三四八番
編集兼発行所 保坂周助
定価百五十円（年間購読11回・千二百円）